令和元年度
国際的な障害者スポーツ大会に係る調査
調査結果報告書

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

目次

1 調査概要 1

1.1 調査目的 3

1.2 調査方法 3

(1) 調査対象 3
(2) 調査項目 3
(3) 調査方法 4
(4) 調査期間 4

2 調査結果 5

○ 調査結果パートの構成について 7

① IWAS 世界大会 9

(1) 大会の概要 11
(2) 第 6 回 IWAS 世界競技大会 13
(3) 第 5 回 IWAS 世界競技大会 15
(4) 第 4 回 IWAS 世界競技大会 17

② CPISRA ワールドゲームズ 19

(1) 大会の概要 21
(2) 2018 CPISRA ワールドゲームズ 23
(3) 2015 CPISRA ワールドゲームズ 25

③ IBSA ワールドゲームズ 27

(1) 大会の概要 29
(2) ソウル 2015 IBSA ワールドゲームズ 31
(3) 第 4 回 IBSA 世界大会権大会 35

④ INAS グローバルゲームズ 37

(1) 大会の概要 39
(2) 第 4 回 INAS グローバルゲームズ 41
(3) 第 3 回 INAS グローバルゲームズ 43
(4) 第 2 回 INAS グローバルゲームズ 45

⑤ スペシャルオリンピックス夏季世界大会 47

(1) 大会の概要 49
(2) 第 15 回スペシャルオリンピックス夏季世界大会 51
(3) 第 14 回スペシャルオリンピックス夏季世界大会 55
(4) 第 13 回スペシャルオリンピックス夏季世界大会 60

⑥ 夏季デフリンピック競技大会 63

(1) 大会の概要 65
(2) 第 23 回夏季デフリンピック競技大会 68
(3) 第 22 回夏季デフリンピック競技大会 72
(4) 第 21 回夏季デフリンピック競技大会 75

⑦ アジアパラ競技大会 79

(1) 大会の概要 81
(2) インドネシア 2018 アジアパラ競技大会 83
(3) インチョン 2014 アジアパラ競技大会 87
(4) 広州 2010 アジアパラ競技大会 91

⑧ スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会 95
(1) 大会の概要 97
(2) 2013 年スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会 98
⑨ アジア太平洋ろう者競技大会 101
(1) 大会の概要 103
(2) 第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会 105
(3) 第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会 108
3 まとめ 111

1　調査概要

1.1 調査目的

東京2020パラリンピック大会後、障害者スポーツに対する興味・関心が引き続き高まっていくとともに、障害者のスポーツ活動が一層盛んになるようにすることが重要である。

東京都では、障害者のスポーツ活動を盛んにし、東京都スポーツ推進総合計画(平成30年3月策定)で達成指標としている障害のある都民(18歳以上)のスポーツ実施率40%を達成するため、スポーツや身体活動をする人の裾野を広げるとともに、国際的な大会で活躍する東京ゆかりの選手を輩出できるよう取組を進めているところである。今後、障害者スポーツへの興味・関心をより一層高め、具体の活動につなげていくためには、普及啓発を更に強化するとともに、東京2020パラリンピック大会後もパラリンピック競技大会のような国際的な障害者スポーツ大会が東京で開催され、アスリートの凄さを直接体感できる機会の創出に向けた検討を進めていくことが重要である。

そこで、国際的な障害者スポーツ大会の開催支援を検討するに当たり、基礎資料を整備するため、本調査を実施した。

1.2 調査方法

(1) 調査対象

2009年以降に開催された以下の22大会を対象として調査を実施した。

大会名	開催年・国					
	直近		2大会前		3大会前	
① IWAS世界大会	2019	UAE	2017	ポルトガル	2015	ロシア
② CPISRAワールドゲームズ	2018	スペイン	2015	イギリス		
③ IBSAワールドゲームズ	2015	韓国	2011	トルコ		
④ INASグローバルゲームズ	2015	エクアドル	2011	イタリア	2009	チェコ
⑤ スペシャルオリンピックス夏季世界大会	2019	UAE	2015	アメリカ	2011	ギリシャ
⑥ 夏季デフリンピック競技大会	2017	トルコ	2013	ブルガリア	2009	台北
⑦ アジアパラ競技大会	2018	インドネシア	2014	韓国	2010	中国
⑧ スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会	2013	オーストラリア				
⑨ アジア太平洋ろう者競技大会	2015	台湾	2012	韓国		

(2) 調査項目

主に以下の項目について調査を実施した。

(ア) 大会名
(イ) 開催国・開催都市・開催期間
(ウ) 主催、主管、後援、協賛者等関係者
(エ) 参加対象となる障害種別
(オ) 競技名・競技数
(カ) 参加国数・選手数
(キ) 日本選手団派遣選手数・成績
(ク) 各競技会場の概要
(ケ) 観客・チケット販売の概要
(コ) ボランティアの概要
(サ) 大会開催に当たっての主な障害者対応(選手・観客)

(3) 調査方法

以下の3種類の方法により、調査を実施した。

① 文献調査

インターネットや出版物等で公表されている資料等を収集し、調査を実施した。

② ヒアリング調査

文献調査に加えて、必要に応じて、各大会の関係者に対してヒアリング調査を実施した。

【ヒアリング調査にご協力いただいた団体・有識者の皆様】

日本パラリンピック委員会(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会スポーツ推進部)

公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本

一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会

公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟

日本体育大学スポーツマネジメント学部 教授 野村一路 様

③ メール調査

国際団体に対して、調査票を添付したメールにて調査協力依頼を行った。

※いずれの団体からも回答を得ることはできなかった。

【メール調査の依頼を行った国際団体】

アジアパラリンピック委員会 (APC)

国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD)

スペシャルオリンピックス国際本部 (SOI)

(4) 調査期間

2019年7月1日(月)～2019年12月27日(金)

2 調査結果

○ 調査結果パートの構成について

このパートでは、調査の対象となった国際大会について、以下の概要をまとめている。

1. 大会の開催趣旨
2. 主催者等の情報
3. 大会の開催頻度
4. 参加対象となる選手の障害種別等
5. 開催都市の決定方法

そのうえで、それぞれの国際大会ごとに、2009年以降に開催された大会について、以下の概要をまとめている。

① 開催国・開催都市
② 開催日程
③ 運営主体
④ 参加国数・選手数
⑤ 実施競技数・競技名
⑥ 日本選手団派遣選手数・成績
⑦ 会場
⑧ 競技実施状況(日程・種目数など)
⑨ 大会ロゴマーク等
⑩ その他の特記事項

上記以外にも、「観客・チケット販売の概要」「ボランティアの概要」「大会開催に当たっての主な障害者対応(選手・観客)」「開催経費」などについても調査を行ったが、十分な情報は公開されていなかった。

まず、「観客・チケット販売の概要」については、基本的に観戦無料の大会がほとんどであった。また、主催者等も観客数について正確な数値を把握していない模様であった。

また、「開催経費」については、ボランティアや持ち回りで事務局を担当しているケースが多く、開催経費など過去の大会にかかわる情報全体を把握している機関がほとんどないように見受けられた。このため、本調査を通じて得られなかった一部情報は、「－」として表記している。

なお、一部ではあるものの「スペシャルオリンピックス夏季世界大会」「夏季デフリンピック競技大会」「アジアパラ競技大会」などでは、大会開催報告書が編纂されている大会もあり、それらの報告書類から開催経費等の公開情報が得られた大会については、その他の特記事項として、知りえた情報を整理して報告している。

①　IWAS 世界大会

(1) 大会の概要

IWAS 世界大会
(英名：IWAS World Games)

1 開催趣旨

VALUES: Inspire Worldwide Achievements in Sport
(バリュー： スポーツにおいて世界的な成果をもたらす)
VISION: Develop sporting opportunities for athletes to maximise their potential
(ビジョン： アスリートの可能性を最大限に引き出す機会をつくる)
MISSION: Inspire Worldwide Achievements in Sport
(ミッション： スポーツにおいて世界的な成果をもたらす)
※( )内は参考和訳

2 主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○国際車いす切断者競技連盟 (International Wheelchair & Amputee Sports Federation、略称：IWAS)

Aylesbury College, Oxford Road,
Aylesbury(エイルズベリー), Buckinghamshire HP21 8PD, UK

会長： Rudi Van Den Abbeele
副会長： Tariq Sultan Almansouri
副会長： Pavel Rozhkov

URL：http://www.iwasf.com/iwasf/

○日本パラリンピック委員会 (Japanese Paralympic Committee)

〒103-0014
東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6 ユニゾ水天宮ビル 3 階
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会内

会長： 鳥原光憲
委員長： 山脇康

URL：http://www.jsad.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/

3 開催頻度

2 年に 1 度

4 参加対象となる選手の障害種別等

肢体不自由の障害者

(主な参加資格)
国際パラリンピック委員会(IPC)ライセンスを取得済みであること
エントリー時に 14 歳になっていること

5　開催都市の決定方法

入札形式、IWAS 総会で決定する。なお、入札申請時に実施競技(最低 4 競技以上)についても申し出る。

IWAS は、2015 年に、2017 年～2022 年の World Games の開催地立候補の呼びかけ(Call for Bids)を行った。

これまでの開催地は以下のとおり

開催年	開催国	開催都市	備考
2007 年	台湾	台北	
2009 年	インド	バンガロール	
2011 年	UAE	シャルジャ	
2013 年	オランダ	スタッズカナール	
2015 年	ロシア	ソチ	
2017 年	ポルトガル	ヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオ	
2019 年	UAE	シャルジャ	

(2) 第 6 回 IWAS 世界競技大会
(英名：2019 IWAS World Games)

① 開催国・開催都市

アラブ首長国連邦　シャルジャ

② 開催日程

2019 年 2 月 10 日(日)～16 日(土)までの 7 日間

③ 運営主体

the Higher Organizing Committee of IWAS World Games Sharjah 2019
上記大会組織委員会の母体は、アルティカ障がい者スポーツクラブ (Althiqah Club for Disabled)

④ 参加国数・選手数

50 か国　選手 528 人 (男子：372 人、女子：156 人)
参加者全員 1 人 200 ポンド(※1 ポンド＝約 143 円)の登録費が必要

⑤ 実施競技数・競技名

7 競技 (アーチェリー、陸上競技、バドミントン、射撃、水泳、卓球、車いすフェンシング)

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

陸上競技で 1 人、金 2 (100m, 200m)

⑦ 会場

競技会場は全てシャルジャ内

会場名	実施競技
Althiqah Club for Disabled	アーチェリー、陸上競技、バドミントン、車いすフェンシング
American University of Sharjah	卓球、水泳
Aldhaid Sports Club	射撃

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・ 選手数 (男・女)	日本選手団 派遣選手数	その他
アーチェリー	2/13-16	21 人 (男 19・女 2)	0 人	
陸上競技	2/13-16	198 人 (男 149・ 女 49)	1 人(男)	小人症競技も含む
バドミントン	2/11-12	27 人 (男 18・女 9)	0 人	
射撃	2/10-12	20 人 (男 16・女 4)	0 人	
水泳	2/13-16	25 人 (男 20・女 5)	0 人	
卓球	2/14-15	45 人 (男 40・女 5)	0 人	
車いす フェンシング	2/13-16	192 人 (男 110・女 82)	0 人	

・開会式:2/12

・閉会式:2/16

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

⑩ その他の特記事項

シャルジャは 2011 年大会に続き 2 度目の開催。

もともと 2017 年大会の開催地に選ばれていたが、財政事情により 2016 年 12 月に辞退。

選手団用の宿泊施設としてシャルジャのホテルが用意された。

登録費(200 ポンド)とは別途かかる選手団の参加費用は 1 人 1 日 100 ポンド(※1 ポンド＝約 143 円)であり、これには、宿泊費、食費(3 食)、出発・到着時の空港(ドバイ国際空港またはシャルジャ国際空港)送迎費、ホテルと競技会場等間の移動費、開閉会式の費用等を含む。

(3) 第 5 回 IWAS 世界競技大会
(英名：2017 IWAS World Games)

① 開催国・開催都市

ポルトガル共和国　ヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオ

② 開催日程

2017 年 11 月 30 日(木)～12 月 6 日(水)までの 7 日間

③ 運営主体

the Organizing Committee for the 2017 IWAS World Games
上記大会組織委員会の母体は、Federação Portuguesa de Desporto para Pessoas com Deficiência (FPDD)

④ 参加国数・選手数

42 か国

⑤ 実施競技数・競技名

5 競技 (アーチェリー、陸上競技、パラテコンドー、水泳、卓球)

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

不参加

⑦ 会場

会場名	実施競技等
Vila Real de Santo Antonio Sports Complex	全競技を実施。1989 年完成。7,500 人収容

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
アーチェリー	12/3-4	-	-	
陸上競技	12/3-5	-	-	
パラテコンドー	12/3-4	-	-	
水泳	12/3-4	-	-	
卓球	12/3-4	-	-	

・開会式：12/1

・閉会式：12/5

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

⑩ その他の特記事項

選手団用の宿泊施設として、Yellow Praia Monte Gordo(4つ星ホテル)が用意された。

選手団の参加費用は 1 人 1 日 100 ユーロ(※1 ユーロ＝約 143 円)であり、これには、宿泊費、食費(3 食)、空港送迎費、ホテルと競技会場等間の移動費、等を含む。

(4) 第 4 回 IWAS 世界競技大会
(英名:2015 IWAS World Games)

① 開催国・開催都市

ロシア連邦　ソチ

② 開催日程

2015 年 9 月 27 日(日)～10 月 2 日(金)までの 6 日間

③ 運営主体

the Organizing Committee of the IWAS World Games 2015
上記大会組織委員会の母体は、Russian Sports Federation for Persons with Physical Disabilities

④ 参加国数・選手数

34 か国、選手 598 人

⑤ 実施競技数・競技名

6 競技 (アーチェリー、腕相撲、陸上競技、パラテコンドー、水泳、卓球)

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

金メダル:0 個　銀メダル:3 個　銅メダル:4 個、すべて水泳

⑦ 会場

会場名	実施競技等
Yug Sport arena	開会式、アーチェリー、腕相撲、陸上競技、パラテコンドー、卓球、閉会式
Grand Hotel Polyana	水泳

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
アーチェリー	-	-	-	
腕相撲	-	-	-	
陸上競技	-	-	-	
パラテコンドー	-	-	-	
水泳	-	-	-	
卓球	-	-	-	

・開会式:9/27

・閉会式:10/2

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

⑩ その他の特記事項

2014 年 8 月のサイト・ビジット後にソチが開催地に決定された。同年にはソチで冬季オリンピック・パラリンピック競技大会を開催しており、競技会場は異なるものの国際的な障害者スポーツ大会の受入れ環境が整っていると評価された。

②　CPISRA ワールドゲームズ

(1) 大会の概要

CPISRA ワールドゲームズ
(英名：CPISRA World Games)

1 開催趣旨

脳性麻痺者のための国際総合スポーツ競技大会である。
将来的にパラリンピックなどの競技大会で活躍するための学習・経験を得るための機会を提供することも開催目的の一つである。

2 主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会 (Cerebral Palsy International Sports and Recreation Association、略称：CPISRA)

Suite 102, Fullarton House, 4 Fullerton Street, Ayr,
KA7 1UP, Scotland, United Kingdom.

会長： Peter Drysdale
副会長： Sandy Hermiston
事務総長： Brett Cooper

URL：http://cpisra.org/http://cpisra.org/

○日本パラリンピック委員会 (Japanese Paralympic Committee)

〒103-0014
東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6 ユニゾ水天宮ビル 3 階
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会内

会長： 鳥原光憲
委員長: 山脇康

URL：http://www.jsad.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/

3 開催頻度

原則として、4 年に 1 度

4 参加対象となる選手の障害種別等

脳性麻痺

5　開催都市の決定方法

これまでの開催地は以下のとおり

開催年	開催国	開催都市	備考
1989 年	イギリス	ノッティンガム	
1993 年	イギリス	ノッティンガム	
1997 年	イギリス	ノッティンガム	
2001 年	イギリス	ノッティンガム	
2005 年	アメリカ	コネチカット	
2015 年	イギリス	ノッティンガム	
2018 年	スペイン	サン・クガ・ダル・バリェス	

(2) 2018 CPISRA ワールドゲームズ (英名：CPISRA World Games 2018)

① 開催国・開催都市

スペイン王国　サン・クガ・ダル・バリェス

② 開催日程

2018 年 8 月 7 日(火)～16 日(木)までの 8 日間

③ 運営主体

Federació Esportiva Catalana de Paralítics Cerebrals (FECPC)
上記組織委員会を、Federación Española de Deportes de Personas con Parálisis Cerebral y Daño Cerebral Adquirido (FEDPC)が支援

【スポンサー】
COLLABORATORS として、Obra Social La Caixa、Linde、Fundación Privada Prevent、CocaCola

④ 参加国数・選手数

30 か国　600 人

⑤ 実施競技数・競技名

6 競技 (陸上競技、水泳、CP サッカー、ボッチャ、女子 CP サッカー、車いすスラローム)
CP サッカーは、CP サッカーU19 世界大会として実施

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

日本からは、女子 CP サッカーに 2 人が参加した。
スペイン(9 名)、オランダ(2 名)からの参加者とともに、合計 13 名で 4 日間のキャンプに参加した。

⑦ 会場

メイン会場である「High Performance Sports Centre of Catalonia (CAR)」は、1992 年のバルセロナオリンピックの開催に合わせて建設

会場名	実施競技等	その他概要
High Performance Sports Centre of Catalonia (CAR)	陸上競技、水泳	1992 年完成
Jaume Tubau Stadium	CP サッカー	2001 年完成。500 人収容
Zona Esportiva La Guinardera	ボッチャ、女子 CP サッカー	2004 年完成。100 人収容
Rambla del Celler	車いすスラローム	350 人収容

⑧　各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	8/9-11	-	0 人	
水泳	8/9-11	-	0 人	
CP サッカー	8/9-13	3 か国	0 人	
女子 CP サッカー	8/10-11	3 か国	2 人	ボッチャ、女子 CP サッカー、車いすスラロームの 3 競技は Developing Sports と位置づけ、競技に先立ち、コーチの指導による Training Camp を 2 日間実施し、その後、競技会を 2 日間実施
ボッチャ	8/10-11	6 か国	0 人	
車いすスラローム	8/10-11	-	0 人	

⑨　大会ロゴマーク等

【ロゴ】

CPISRA
World Games
sant cugat

大会公式ホームページに加えて、SNS(Facebook/Instagram/Twitter)を開設
また、公式ショップでは、T シャツ、帽子、ブレスレットなどを販売

⑩　その他の特記事項

選手団用には、競技会場との間の移動時間が混雑時においても 10 分以内の立地にある 6 つのホテルが用意された。

選手団の参加費用は 1 人 1 日 135 ユーロ(※1 ユーロ＝約 131 円)であり、これには、宿泊費、食費(3 食)、空港送迎費、ホテルと競技会場等間の移動費、レセプション等への参加費、等を含む。

競技に先立ち、Proud Paralympian：障害者スポーツの競技者としての心構えなどについて学ぶワークショップを開催した。

＜Proud Paralympian の 6 つのユニット>

- The Paralympic Movement
- Athlete Health and Wellbeing
- Ethics
- Human Rights
- Working with the Media
- Dual Career Strategy

外国からのボランティア用に 1 人 1 日 61 ユーロのボランティアパッケージを提供。パッケージには、保険、ホステル宿泊費、ユニフォーム、食事、交通費、等を含む。

(3) 2015 CPISRA ワールドゲームズ (英名：Nottingham 2015 CPISRA World Games)

① 開催国・開催都市

英国 ノッティンガム

② 開催日程

2015 年 8 月 6 日(木)～16 日(日)までの 11 日間

③ 運営主体

CP Sport England & Wales

【スポンサー】
Games sponsors として、Carillion PLC、Irwin Mitchell and Bear IT.

④ 参加国数・選手数

13 か国 400 人

⑤ 実施競技数・競技名

6 競技 (陸上競技、CP ボウル※、CP サッカー、水泳、パラテコンドー、テーブルクリケット)
CP サッカー(脳性まひ者 7 人制サッカー)は、CP サッカーU19 世界大会として実施
パラテコンドーとテーブルクリケットは公開競技(demonstration sports)として実施
日本からは、CP サッカーに 10 人が参加
※CP ボウル：ボウルと呼ばれる偏心球を、目標球のそばにどれだけ近づけられるかを競う球技。(国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会ホームページ、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会発行「JPSA スポーツガイド」より)

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

10 人

⑦ 会場

開会式、陸上競技などが開催された Harvey Hadden Sports Complex は、ノッティンガム市が 1 億 3,500 万ポンドの費用をかけて改修を行い、2015 年にリニューアルオープン

会場名	実施競技等
Harvey Hadden Sports Complex	開会式、陸上競技、水泳、パラテコンドー、テーブルクリケット、閉会式
Nottingham Indoor Bowls Club	CP ボウル
Highfields Playing Fields	CP サッカー

⑧　各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	8/13-15	-	0 人	
CP ボウル	8/10-12	-	0 人	
CP サッカー	8/10-15	7 か国	10 人	日本は 7 か国中 7 位
水泳	8/13-15	-	0 人	
パラテコンドー	8/8	-	0 人	
テーブルクリケット	8/14	-	0 人	

⑨　大会ロゴマーク等

【ロゴ】　　【公式マスコット】

ノッティンガム地域のすべての学校を対象として、マスコットを公募

⑩　その他の特記事項

2005 年の前回大会(アメリカ合衆国・コネチカット州)の開催から 10 年ぶりの大会であった。

選手村は Nottingham Trent University City Centre Campus 内に設けられ、家族・友人・ボランティア村は、Nottingham Trent University Clifton Campus 内に設けられた。

大会参加費用は 1 人 1 日 85 ポンド(※1 ユーロ＝約 192 円)であり、これには、宿泊費、食費(3 食)、ホテルと競技会場等間の移動費、等を含む。

2014 年 8 月から 2014 年 11 月 7 日までボランティアの募集を行った。大会には 180 人のボランティアが参加したが、その多くは 2012 年ロンドンオリンピック・パラリンピック大会でもボランティアと活動した人たちであった。

開会式・閉会式の観戦チケットは、大人が 12 ポンドで、16 歳以下の子供は 6 ポンド、障害者は 6 ポンド(付添人 1 人分が無料となる)であった。

競技観戦チケットは、大人が 8 ポンドで子供が 6 ポンド、障害者は 6 ポンド(付添人 1 人分が無料となる)であった。

③　IBSA ワールドゲームズ

(1) 大会の概要

IBSA ワールドゲームズ
(英名 : IBSA World Games)

1 開催趣旨

パラリンピックの前年に、視覚障害者の総合大会として開催される。

2 主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○国際視覚障害者スポーツ連盟 (International Blind Sports Federation、略称 : IBSA)

会長 : Jannie Hammershoi
副会長 : Robert J. Fenton
事務総長 : Sally Wood-Lamont
財務担当 : Riikka Juntunen
委員 : 松崎 英吾(日本ブラインドサッカー協会 専務理事・事務局長)、他 4 人
エグゼクティブ・ディレクター : Henk van Aller

URL : http://www.ibsasport.org/

○日本パラリンピック委員会 (Japanese Paralympic Committee)

〒103-0014
東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6 ユニゾ水天宮ビル 3 階
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会内

会長 : 鳥原光憲
委員長 : 山脇康

URL : http://www.jsad.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/

3 開催頻度

原則として、4 年に 1 度

4 参加対象となる選手の障害種別等

視覚障害

5 開催都市の決定方法

IBSA では、2019 年大会の開催に向けて、2017 年 3 月から開催地としての立候補の申請受付を開始したが、結局、立候補地がなく、開催が見送られることとなった。

これまでの開催地は以下のとおり

開催年	開催国	開催都市	備考
1998 年	スペイン	マドリード	
2003 年	カナダ	ケベック	
2007 年	ブラジル	サンパウロ	
2011 年	トルコ	アンタルヤ	
2015 年	韓国	ソウル	

(2) ソウル 2015 IBSA ワールドゲームズ (英名：Seoul 2015 IBSA World Games)

① 開催国・開催都市

大韓民国 ソウル

② 開催日程

2015 年 5 月 10 日(日)～17 日(日)までの 8 日間

③ 運営主体

the Seoul 2015 IBSA World Games Organizing Committee (SWGOC)
上記大会組織委員会の母体は Korea Blind Sports Association と推察

【スポンサー】
Prestige Partner として TOM N TOM COFFEE
Partner として GKL Foundations、Sponsor として大韓航空、Buffalo

④ 参加国数・選手数

60 か国・地域 1,000 人

⑤ 実施競技数・競技名

9 競技 (陸上競技、チェス、5 人制サッカー(B1、B2/B3)、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ショウダウン※、水泳、テンピンボウリング)
うち、日本選手はチェス、ショウダウン、水泳を除く 6 競技に参加
※ショウダウン：視覚障害者のために作られた敏捷性を必要とする球技。2 名の選手によって行われる。障害の程度の差をなくすため、全員がアイシェードを着用する。
ゲームは、センターボードスクリーンとそれぞれのエンドにゴールポケットのある長方形のテーブルで行われ、ラケットと中に金属の粒が入ったボールが使われる。
センターボードスクリーンの下を通して、相手のゴールにボールを入れ、またそれを阻止しようとするゲームである。
視覚障害者用卓球と間違って表現されるが、この競技は、相手のゴールポケットにボールが入ると得点となる。視覚障害者向けのエアーホッケーなどと例えられることもある。(佐藤紀子「視覚障害者スポーツ競技におけるクラス分類およびカテゴリー分類の現状と課題」日本大学歯学部紀要 34, 129-138, 2006 より)

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

146 人 (選手：82 人、ガイド：7 人、競技団体スタッフ：50 人、本部スタッフ：7 人)
金メダル：1 競技 4 個 銀メダル：3 競技 12 個 銅メダル：4 競技 7 個

	金	銀	銅	合計
陸上競技	0	6	3	9
チェス	0	0	0	0
5 人制サッカー(B1)	0	0	0	0
5 人制サッカー(B2/B3)	0	0	0	0
ゴールボール	0	0	0	0
柔道	0	1	1	2
パワーリフティング	0	0	1	1
ショウダウン	0	0	0	0
水泳	0	0	0	0
テンピンボウリング	4	5	2	11
計	4	12	7	23

⑦ 会場

会場名	実施競技等	その他概要
Incheon Munhak Stadium	陸上競技	2002 年 2 月完成。48,590 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 1 時間
Songpa Women's Football Field	5 人制サッカー(B1)	2010 年 11 月完成。70 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 25 分
SK Handball Gymnasium	5 人制サッカー(B2/B3)	2011 年 10 月年完成。5,003 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 25 分
Jamsil Gymnasium	開会式、 ゴールボール(女子)、 閉会式	1979 年 4 月完成。11,069 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 25 分
Jangchung Gymnasium	ゴールボール(男子)	2015 年 2 月年完成。4,507 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 30 分
Jamsil Student Gymnasium	柔道	1977 年 4 月年完成。5,400 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 20 分
Woori Art Hall(Olympic Park)	パワーリフティング	2009 年 9 月完成。1,184 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 30 分
Tancheon Sports Complex	水泳	2001 年 11 月完成。760 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 30～40 分
Anyang Hogye Gymnasium	テンピンボウリング	2008 年 8 月完成。200 人収容。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 40～50 分
E-room Center	チェス	2007 年 5 月完成。150 人収容
Seoul Olympic Parktel	ショウダウン	1990 年 9 月完成。 選手団の宿泊ホテルからの所要時間は 30 分

メインスタジアムである「Incheon Munhak Stadium」は、サッカーの日韓ワールドカップの会場。

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	5/11-15	-	19 人	
チェス	5/10-16	-	0 人	
5 人制サッカー(B1)	5/11-16	9 か国	8 人	日本は 5 位決定戦でトルコに勝利した
5 人制サッカー(B2/B3)	5/11-16	5 か国	8 人	日本は 3 位決定戦でイタリアに敗れた
ゴールボール(男子)	5/10-17	-	6 人	
ゴールボール(女子)	5/10-17	-	5 人	
柔道	5/12-15	-	17 人	
パワーリフティング	5/11-13	-	3 人	
水泳	511-15	-	0 人	
ショウダウン	5/11-14	-	0 人	
テンピンボウリング	5/13-16	12 か国、68 人	12 人	

・開会式:5/10

・閉会式:5/17

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

SEOUL 2015
IBSA WORLD GAMES
2015서울세계시각장애인경기대회

【公式マスコット】

【ポスター】

スローガンは、“See with Passion, Run with Hope!”

⑩ その他の特記事項

選手団用の宿泊施設としてソウル市内のホテルが用意された。

選手団の参加費用は 5/8～18 までで一人 995 ユーロ(※1 ユーロ＝約 134 円)であり、これには、宿泊費、食費、出発・到着時の空港(仁川空港または金浦空港)送迎費、ホテルと競技会場等間の移動費を含む。

障害者対応として、以下の取組を行う旨の報道がされている。

- 「心は見える(The Heart Sees)」というテーマで、視覚障害者の選手たちと観客のために「現場解説システム」※を世界で初めて導入する。
  ※現場解説システム：競技の実況と解説をリアルタイムで聴くことのできる短波受信機を視覚障害者らに支給する。大会期間中は、各案内所に置かれたパンフレットなどに印刷された QR コードをスマートフォンで読み取ると QR コードに保存された情報を音声で聞くことのできる技術「ボイスアイ」が導入される。

(3) 第 4 回 IBSA 世界大会権大会
(英名：4th IBSA World Championships and Games Antalya 2011)

① 開催国・開催都市

トルコ共和国　アンタルヤ

② 開催日程

2011 年 4 月 1 日(金)～10 日(日)までの 10 日間

③ 運営主体

Turkish Blind Sports Federation

④ 参加国数・選手数

70 か国・地域　1,200 人

⑤ 実施競技数・競技名

7 競技 (陸上競技、チェス、5 人制サッカー(B1、B2/B3)、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、水泳)
うち、日本選手はチェス、5 人制サッカー(B1)、水泳を除く競技に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

70 人 (選手：42 人、ガイド・役員：28 人)
獲得メダル総数は不明

	金	銀	銅	合計
陸上競技	2	1	2	5
チェス	0	0	0	0
5 人制サッカー(B1)	0	0	0	0
5 人制サッカー(B2/B3)	-	-	-	-
ゴールボール	-	-	-	-
柔道	1	1	2	4
パワーリフティング	-	-	-	-
水泳	0	0	0	0
計	-	-	-	-

⑦ 会場

会場情報は不明

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	4/4-8	-	-	
チェス	-	-	-	
5 人制サッカー(B1)	4/4-9	7 か国	-	
5 人制サッカー(B2/B3)	4/3-9	9 か国	-	
ゴールボール(男子)	4/4-10	15 か国	-	
ゴールボール(女子)	4/4-10	14 か国		
柔道	-	-	16 人	
パワーリフティング	4/5,8	-	1 人	
水泳	4/4-8	-	-	

・開会式:4/1

・閉会式:4/10

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

④　INAS グローバルゲームズ

(1) 大会の概要

INAS 世界大会
(英名:INAS Global Games)

1 開催趣旨

VISION: Athletes With An Intellectual Impairment Across The World Have The Opportunity To Achieve Excellence In Sport And High-Level Competition
(ビジョン: 知的障害のあるアスリートが、スポーツですばらしい結果を出し、ハイレベルな競技を行える)
※( )内は参考和訳

2 主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○国際知的障害者スポーツ連盟 (the International Federation for Intellectual Impairment Sport、略称: INAS)

※ INAS は 2019 年 10 月のブリスベーン大会終了後、Virtus: World Intellectual Impairment Sport にブランド変更している。

イギリス・バーミンガム

会長: Marc Truffaut
副会長: Robyn Smith

○一般社団法人 全日本知的障がい者スポーツ協会 (All Nippon ID Sport Association)

NPO 法人日本知的障害者スポーツ連盟の後を受け発足

〒141-0033 東京都品川区西品川 1-1-1 住友不動産大崎ガーデンタワー9 階

会長: 齋藤 利之

URL:http://www.anisa.or.jp

3 開催頻度

4 年に 1 度

4 参加対象となる選手の障害種別等

知的障害者(IQ75 以下)

5　開催都市の決定方法

入札形式。

入札に際しては、競技施設、交通機関、アンチドーピング、宿泊施設、メディア、マーケティング、ブランディング、人員、予算等の面での計画を提出することが求められている。

あわせて、政府および開催地自治体等による支援を約束する文書を提出することが求められている。

INAS では現在、2023 年大会の開催地の選考過程にあり、日本(横浜市)も候補となっていたが、辞退した。

＜2023 年大会開催地決定までのスケジュール＞

2018 年 2 月 1 日　　入札開始

2018 年 4 月 30 日　入札参加希望受付締め切り

2018 年 5 月 31 日　INAS(the Global Games Committee)による開催候補地決定

2019 年 1 月 31 日　入札受付締め切り

2019 年 2～3 月　　INAS(the Global Games Committee)による入札内容審査

これまでの開催地は以下のとおり。

開催年	開催国	開催都市	備考
2004 年	スウェーデン	ボルネス	
2009 年	チェコ	リベレツ	
2011 年	イタリア	リグリア	
2015 年	エクアドル	キト	火山噴火により、グアヤキルで開催
2019 年	オーストラリア	ブリスベーン	

(2) 第 4 回 INAS グローバルゲームズ

① 開催国・開催都市

エクアドル共和国　グアヤキル

② 開催日程

2015 年 9 月 20 日(日)～27 日(日)までの 8 日間

③ 運営主体

the Federación Ecuatoriana de Deportes Para personas con Discapacidad Intelectual (FEDEDI)

④ 参加国数・選手数

32 ヵ国、選手 1,000 人、コーチ・役員 500 人

⑤ 実施競技数・競技名

8 競技 (陸上競技、バスケットボール、自転車、フットサル、水泳、卓球、テコンドー、テニス)
うち、日本選手は 5 競技(陸上競技、バスケットボール、フットサル、水泳、卓球)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

142 人 (選手:94 人、スタッフ:48 人)
金メダル:7 個　銀メダル:17 個　銅メダル:18 個

	金	銀	銅	計
陸上競技	2	4	5	11
バスケットボール	0	0	0	0
フットサル	0	0	0	0
水泳	5	12	11	28
卓球	0	1	2	3
計	7	17	18	42

⑦ 会場

火山噴火の影響により、キトからグアヤキルやグアランダ、クエンカに変更。

会場名	実施競技等	概要
Modelo Alberto stadium	開会式	1959 年完成。42,000 人収容
Atletico OlivieiraGuaranda	陸上競技	
DIANA QUINTANA CLUBSAMBORONDON	水泳	

※その他競技および閉会式の会場は不明。

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・ 選手数	日本選手団派 遣選手数	その他
陸上競技	9/21-26	-	34 人 (男 20・女 14)	
バスケットボール	9/21-27	-	20 人 (男 10・女 10)	
自転車	9/23-27	-	-	
フットサル	9/21-27	-	10 人 (男 10・女 0)	
水泳	9/22-26	-	26 人 (男 19・女 7)	
卓球	9/20-25	-	4 人 (男 4・女 0)	
テコンドー	9/24	-	-	
テニス	9/21-26	-	-	

・開会式:9/20

・閉会式:9/27

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

⑩ その他の特記事項

【開催決定の経緯】

クロアチアとコロンビアを抑えて選出された。ヨーロッパ以外での初開催となった。

【大会開催をめぐる問題】

2015 年 8 月にエクアドル中央部にあるコトパクシ山が噴火したことから、キト周辺の競技会場を急遽変更して開催した。

開会式当日に、大会組織委員会から INAS に対して、大会実施に際しての財政負担能力がない旨の通知があり、最終的には、エクアドル政府の支援も得ながら、INAS が大会運営を行ったとのこと。

【ボランティア】

ボランティアに対しては、首都キトの Eloy Alfaro Military School (ESMIL)で研修を実施した。

(3) 第 3 回 INAS グローバルゲームズ (英名:INAS Global Games 2011)

① 開催国・開催都市

イタリア共和国 リグリア
(リグリアはイタリア北西部の州で、州都はジェノヴァ)

② 開催日程

2011 年 9 月 26 日(月)～10 月 3 日(月)までの 8 日間

③ 運営主体

2011 Global Games Organizing Committee

④ 参加国数・選手数

35 ヵ国、選手 700 人、コーチ・役員 500 人
登録費は選手一人あたり 950 ユーロ(※1 ユーロ＝約 103 円)

⑤ 実施競技数・競技名

8 競技 (陸上競技、バスケットボール、自転車、フットサル、柔道、水泳、卓球、テニス)
＋公開競技:ボート(室内) ＊公開競技は次期正式競技候補を試験的に実施。ボートは 2019 年のブリスベーン大会から正式競技となった。
うち、日本選手は 4 競技(陸上競技、バスケットボール、水泳、卓球)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

89 人(選手: 56 人、役員: 33 人)
金メダル:8 個 銀メダル:7 個 銅メダル:6 個

	金	銀	銅	計
陸上競技	1	0	0	1
バスケットボール	0	1	0	1
水泳	7	5	4	16
卓球	0	1	2	3
計	8	7	6	21

⑦ 会場

会場名	実施競技等
Campo Atletica Leggera	陸上競技
Sports Hall PalaSport	バスケットボール
Sport Hall Palazzetto dello Sport di Imperia	フットサル
Piscina Comunale	水泳
Vaillant Palace Sport Hall	卓球
Tennis Club Centre	テニス

※自転車、柔道の会場は不明。

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・ 選手数	日本選手団派 遣選手数	その他
陸上競技	-	-	-	
バスケットボール	9/27-10/2	-	-	
自転車	9/27-10/1	-	-	
フットサル	9/27-10/3	-	-	
柔道	-	-	-	
水泳	9/27-10/1	-	-	
卓球	9/27-10/2	-	-	
テニス	9/27-10/2	-	-	

・開会式:　9/26

・閉会式:　10/3

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

(4) 第 2 回 INAS グローバルゲームズ (英名:INAS Global Games 2009)

① 開催国・開催都市

チェコ共和国 リベレツ

② 開催日程

2009 年 7 月 7 日(火)～7 月 11 日(土)までの 5 日間

③ 運営主体

the Global Games 2009
上記組織の母体は、the Czech Sports Association for Mentally Handicapped (ČSMPS) と推察

④ 参加国数・選手数

35 ヵ国、選手 850 人、コーチ・役員 340 人

⑤ 実施競技数・競技名

7 競技 (陸上競技、バスケットボール、自転車、フットサル、水泳、卓球、テニス)
＋公開競技:柔道、ボート(室内)
うち、日本選手は 4 競技(陸上競技、バスケットボール、水泳、卓球)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

92 人(選手: 59 人、役員: 33 人)
金メダル:1 個 銀メダル:3 個 銅メダル:13 個

	金	銀	銅	計
陸上競技	0	1	3	4
バスケットボール	0	0	1	1
水泳	1	2	6	9
卓球	0	0	3	3
計	1	3	13	17

⑦ 会場

会場名	実施競技等	概要
Tisport Arena	開会式、男子バスケットボール、卓球、柔道	1962 年完成。 13,150 人収容
the sports hall in Jablonec	女子バスケットボール	
the Jablonec venue “Střelnice”	陸上競技	
the swimming pool in Liberec	水泳	
Český Dub	自転車	
Proseč nad Nisou	テニス	

※フットサル、ボートの会場は不明。

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	7/7-	-	-	
バスケットボール	7/7-	-	-	
自転車	-	-	-	
フットサル	-	-	-	
水泳	-	-	-	
卓球	-	-	-	
テニス	-	-	-	

・開会式:7/6

・閉会式:不明

⑨ 大会ロゴマーク等

大会直前の 6 月 25 日に開催さ入れた記者会見を Czech Television で放映

また、Czech Radio では、”Sport is our world!”をモットーとするラジオコマーシャルを放送

プレスセンターは、リベレツ市内の Babylon Hotel に開設された。あわせて宿泊料 20%割引提供

⑩ その他の特記事項

選手村はリベレツ工科大学の学生寮であった。

⑤　スペシャルオリンピックス夏季世界大会

(1) 大会の概要

スペシャルオリンピックス夏季世界大会
(英名：Special Olympics World Summer Games)

1　開催趣旨

スペシャルオリンピックス世界大会は、知的障害のある人たちに、オリンピック種目に準じた様々な競技の継続的なスポーツトレーニングとその成果の発表の場を競技会として提供

2　主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○スペシャルオリンピックス国際本部 (SOI)

1133 19th Street NW
Washington, DC 20036-3604 USA

会長：TIMOTHY SHRIVER, PH.D

その他の主な役員
理事長：　Mary Davis
代表理事・副会長：William P. Alford
副会長：　Angelo Moratti
副会長：　Loretta Claiborne
財務担当：　Michelle Kwan

URL：https://www.specialolympics.org/

○スペシャルオリンピックス日本 (Special Olympics Nippon Foundation、略称：SON)

〒105-0003
東京都港区西新橋 2-22-1 西新橋 2 丁目　森ビル 7 階

理事長：有森裕子

URL：http://www.son.or.jp/

3　開催頻度

4 年に 1 度

4　参加対象となる選手の障害種別等

知的障害
知能指数 75 以下の 18 歳以上の男女

5　開催都市の決定方法

入札方式。

入札のプロセスは以下のとおり

- スペシャルオリンピックス国内組織を通じてスペシャルオリンピックス国際本部(SOI)に対して「入札参加希望書」を提出する。
- SOI より、入札参加希望都市に対して、入札資料集(Bid Questionnaire：入札票、等)が提供される。
- 両者の協議を通じて、入札内容の詳細についての検討を進める。
- 入札参加希望都市より、Bid Questionnaire を提出する。
- スペシャルオリンピックス評議会による現地視察が実施され、開催計画についての審査が行われる。その後、SOI 理事会に対して最終報告書が提出される。
- SOI 理事会の投票により、開催都市が決定される。

(2) 第 15 回スペシャルオリンピックス夏季世界大会
(英名:2019 Special Olympics World Summer Games)

① 開催国・開催都市

アラブ首長国連邦　アブダビ

② 開催日程

2019 年 3 月 12 日(火)～21 日(木)までの 10 日間

③ 運営主体

Special Olympics UAE

【スポンサー】
ADNOC、ADNEC、Aldar Properties、Al Masaood LLC(Nissan)、the Coca-Cola Company、UAE Department of Energy、Emaar Properties、Etihad Airways、Etisalat、First Abu Dhabi Bank、Mudabala Development Company、Emirates Foundation、Lulu Hypermarket、Maydan、Nirvana Travel & Tourism、NMC Health、Noon、SoftBank、等

④ 参加国数・選手数

190 か国・地域　10,500 人 (選手:7,500 人、コーチ:3,000 人)

⑤ 実施競技数・競技名

24 競技 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレー、SO ボッチャ、ボウリング、自転車、馬術、サッカー、ゴルフ、体操競技、新体操、ハンドボール、柔道、カヤック、重量挙げ、ローラースケート、セーリング、水泳、オープンウォータースイミング、卓球、テニス、トライアスロン、バレーボール)
うち、日本選手は 11 競技(陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、サッカー、ゴルフ、体操競技、水泳、卓球、テニス、バレーボール)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

104 人 (選手・パートナー:73 人、コーチ:22 人、その他:9 人)
金メダル:7 競技 16 個　銀メダル:7 競技 18 個　銅メダル:5 競技 10 個

	金	銀	銅	入賞
陸上競技	2	3	3	5
バドミントン	2	1	1	0
バスケットボール	0	1	1	0
ボウリング	2	3	2	3
サッカー	0	0	0	1
ゴルフ	1	0	0	0
体操競技	3	0	0	0
水泳	4	7	3	4
卓球	2	0	0	1
テニス	0	2	0	1
バレーボール	0	1	0	0
計	16	18	10	15

⑦ 会場

陸上競技(Dubai Police Club Stadium)と水泳(Hamdan Sports Complex)、 オープンウォータースイミングのみアブダビに隣接するドバイの会場

会場名	実施競技等	概要
Abu Dhabi National Exhibition Center (ADNEC)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球、体操競技、新体操、SO ボッチャ、重量挙げ、ハンドボール、ローラースケート、柔道	2007 年竣工、センター内にある 12 ホール全体で 5,500 ㎡の広さがあり、年間 100 以上のイベントが開催されている
Zayed Sports City (ZSC)	テニス、サッカー、開会式、閉会式	開会式、閉会式やサッカーの会場となるザイード・スポーツシティ・スタジアムは 43,000 人収容の多目的スタジアムで 1982 年から開場。スタジアム周辺に 5,000 人収容のテニスやボウリング場(KBC)など
Khalifa International Bowling Center (KBC)	ボウリング	世界ボウリング選手権大会開催のため 1999 年に建設。40 レーンを備えるアブダビ最大のボーリング場
Al Forsan International Sports Resort (AFR)	馬術	
YAS Marina Circuit (YMC)	自転車、トライアスロン	アブダビのヤス島にあるモータースポーツのサーキット
YAS Links Golf Course (YSL)	ゴルフ	アラブ唯一の本格的なゴルフ・コース
Abu Dhabi Sailing & Yacht Club (SYC)	セーリング、カヤック	
Corniche Beach (COR)	ビーチバレー	
Dubai Police Club Stadium (DPS)	陸上競技	7,500 人収容の多目的スタジアム
Hamdan Sports Complex (HMD)	水泳	ドバイにある 15,000 人収容の屋内アリーナ。2010 年の世界短水路選手権開催に向け、2010 年に建設
ドバイ (詳細不明)	オープンウォータースイミング	

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	3/17-20	-	6 人	
バドミントン	3/15-20	-	3 人	
バスケットボール	3/15-20	-	男 10 人 女 10 人	
ビーチバレー	3/16-20	-	0 人	
SO ボッチャ	3/15-20	-	0 人	
ボウリング	3/16-19	-	6 人	
自転車	3/15-19	-	0 人	
馬術	3/16-20	-	0 人	
サッカー	3/15-20	-	6 人	
ゴルフ	3/19-20	-	1 人	
体操競技	3/15-16	-	1 人	
新体操	3/15-20	-	0 人	
ハンドボール	3/15-20	-	0 人	
柔道	3/16-18	-	0 人	
カヤック	3/17-18	-	0 人	
重量挙げ	3/16-18	-	0 人	
ローラースケート	3/15-17	-	0 人	
セーリング	3/18-20	-	0 人	
水泳	3/15-20	-	8 人	
オープンウォータースイミング		-	0 人	
卓球	3/15-20	-	2 人	
テニス	3/15-20	-	2 人	
トライアスロン	3/8	-	0 人	
バレーボール	3/15-20	-	12 人	

・開会式：3/14

・閉会式：3/21

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

SPECIAL OLYMPICS
WORLD GAMES
ABU DHABI 2019
الأولمبياد الخاص
الألعاب العالمية
أبوظبي 2019

【マスコット】

⑩ その他の特記事項

【開催決定の経緯】
オーストラリア、ドイツ、南アフリカの 3 か国が開催地の候補として残っていたが、いずれも辞退した。

【チケット販売と観客数】
開会式チケットは Web サイト上にて Dhs100(100 ディルハム)で販売した。※1 ディルハム＝約 30 円
競技観戦は Web サイト上にて事前登録。※競技観戦、閉会式については有料・無料の別は不明。
総観客数は、50 万人。うち、開会式が 40,000 人、閉会式が 25,000 人であった。

【ボランティア】
総勢 21,638 人がボランティアとして参加した。

(3) 第 14 回スペシャルオリンピックス夏季世界大会 (英名:2015 Special Olympics World Summer Games)

① 開催国・開催都市

アメリカ合衆国 ロサンゼルス

② 開催日程

2015 年 7 月 25 日(土)～8 月 2 日(日)までの 9 日間

③ 運営主体

Special Olympics Southern California
the LA2015 organizing committee

【スポンサー】
公式パートナー6 社(Bank of America、the Coca-Cola Company、Deloitte, LLC、Kaiser Permanente、Mattel,Inc.、Toyota)の他、25,000 ドル以上寄付等の企業・個人が 187

④ 参加国数・選手数

164 か国 8,814 人 (選手:6,163 人、コーチ・役員:2,651 人)

⑤ 実施競技数・競技名

23 競技 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、SO ボッチャ、ボウリング、自転車、馬術、サッカー、ゴルフ、体操競技、新体操、ハンドボール、柔道、カヤック、重量挙げ、ローラースケート、セーリング、ソフトボール、水泳(＋オープンウォータースイミング)、卓球、テニス、トライアスロン、バレーボール(＋ビーチバレー))
うち、日本選手は 11 競技(陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、サッカー、ゴルフ、体操競技、水泳、卓球、テニス、バレーボール)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

118 人 (選手・パートナー:83 人、コーチ・役員:35 人)
金メダル:5 競技 6 個 銀メダル:7 競技 16 個 銅メダル:6 競技 16 個

	金	銀	銅	入賞
陸上競技	1	1	2	10
バドミントン	0	3	3	2
バスケットボール	1	0	0	2
ボウリング	0	0	0	0
サッカー	0	0	0	1
ゴルフ	0	1	0	0
体操競技	1	6	2	0
水泳	1	3	6	3
卓球	0	1	1	1
テニス	2	1	2	1
バレーボール	0	0	0	1
計	6	16	16	21

⑦ 会場

競技会場は USC(南カリフォルニア大学)や UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)といった大学などロサンゼルス市内や周辺地区

開・閉会式の会場となった「Los Angeles Memorial Coliseum」は、1923 年オープン、1932 年と 1984 年の夏のオリンピックで開会式・閉会式会場および陸上競技の主会場

会場名	実施競技等	概要
Uytengsu Aquatics Center (USC)	水泳	1,598 人収容
Alamitos Bay in Long Beach	オープンウォータースイミング	
Katherine B. Loker Stadium (USC)	陸上競技	2,974 人収容
Los Angeles Convention Center (LACC)	バドミントン、SO ボッチャ、ハンドボール、重量挙げ、ローラースケート、卓球	1971 年完成。638 人収容
Galen Center (USC)	バスケットボール	4,884 人収容
Shoreline Drive in Long Beach	自転車	
Los Angeles Equestrian Center	馬術	3,450 人収容
Drake Stadium/North Athletic Field (UCLA)	サッカー	2,910 人収容
Griffith Park	ゴルフ	ロスフェリス地区にあるサンタモニカ山脈の東端にある大きな市立公園
John Wooden Center (UCLA)	体操、新体操	633 人収容
Men's Gym(UCLA)	柔道	270 人収容
Long Beach Marine Stadium	カヤック	162 人収容
Belmont Veterans Memorial Pier in Long Beach	セーリング	96 人収容
Easton Stadium(UCLA)	ソフトボール	1,328 人収容
Los Angeles Tennis Center	テニス	5,800 人収容
UCLA's Pauley Pavilion	バレーボール	5,500 人収容
Alamitos Beach in Long Beach	ビーチバレー	528 人収容
Los Angeles Memorial Coliseum	開会式、閉会式	収容人数は 92,516 人、普段はアメリカンフットボールに使用されている

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・ 選手数	日本選手団 派遣選手数	その他
陸上競技	7/25-8/1	157 か国・954 人	7 人	
バドミントン	7/26-8/1	47 か国・146 人	4 人	
バスケットボール	7/25-8/1	54 か国・620 人	男 10 人 女 10 人	
SO ボッチャ	7/25-8/1	96 か国・284 人	0 人	
ボウリング	7/27-31	50 か国・216 人	3 人	
自転車	7/27-31	33 か国・164 人	0 人	
馬術	7/26-8/1	36 か国・121 人	0 人	
サッカー	7/26-31	50 か国・628 人	8 人	
ゴルフ	7/27-31	34 か国・176 人	1 人	
体操競技	7/26-8/1	34 か国・137 人	4 人	
新体操	7/25-28	35 か国・133 人	0 人	
ハンドボール	7/26-8/1	14 か国・173 人	0 人	
柔道	7/27-31	23 か国・99 人	0 人	
カヤック	7/26-31	13 か国・68 人	0 人	
重量挙げ	7/26-8/1	40 か国・162 人	0 人	
ローラースケート	7/25-30	20 か国・104 人	0 人	
セーリング	7/26-8/1	9 か国・54 人	0 人	
ソフトボール	7/25-8/1	8 か国・140 人	0 人	
水泳	7/25-8/1	116 か国・607 人	6 人	
オープンウォータースイミング	7/26,30	35 か国・86 人	0 人	
卓球	7/25-8/1	68 か国・200 人	2 人	
テニス	7/25-8/1	40 か国・143 人	4 人	
トライアスロン	7/26	6 か国・21 人	0 人	
バレーボール	7/25-8/1	21 か国・300 人	12 人	
ビーチバレー	7/25-29	5 か国・35 人	0 人	

・開会式：7/25

・閉会式：8/2

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

【切手】

【広告キャンペーン】

【SNS】
Facebook: www.facebook.com/LA2015
Twitter: @LA2015
Instagram: @LA2015
YouTube: www.youtube.com/LA2015

【テレビ放送】
スポーツ専門チャンネル ESPN による開会式の生中継など。
ESPN のネットワークは、国内 2,000 万人以上、170 か国以上をカバー。

⑩ その他の特記事項

【開催決定の経緯】
南アフリカを抑えて選出された。

【チケット販売と観客数】
開会式のみ 7/2 からチケットを販売した。料金は、$120、$100、$60、$30 の 4 種類であった。
総観客数は、247,247 人。うち、開会式が 62,338 人、閉会式が 30,000 人であった。

【ボランティア】
2013 年 12 月からポータルサイト(LA2015.org/volunteer)を開設し、ボランティアを募集した。
30,000 人からの応募があり、最終的に 8,560 人が 18 分野でボランティアに従事した。
ボランティアは、従事する分野によって異なる色のユニフォームを着用した。

【開催経費】
総額 6,600 万ドルで、内訳は以下のとおり

(単位:USドル) (※1ドル＝約 124 円)

Accommodations for Delegations	4,250,000
Athlete Entertainment	250,000
Food Services & Catering	4,900,000
General Operations	8,300,000
Opening & Closing Ceremonies	3,500,000
Rent - Equipment	3,000,000
Rent - Location	1,200,000
Security & Public Safety	1,500,000
Sports & Field of Play	1,300,000
Staffing	21,300,000
Technology & Media Support	3,100,000
Transportation - Airfare & Other	1,100,000
Transportation - Ground	3,150,000
Venue Operations	5,400,000
Volunteer Expenses	650,000
SOI Sanctioning Fee (2.5%)	1,150,000
SOSC Financial Contribution	950,000
Contingency	1,000,000
計	66,000,000

出典：SPECIAL OLYMPICS WORLD GAMES LOS ANGELES 2015: RETROSPECTIVE

(4) 第 13 回スペシャルオリンピックス夏季世界大会 (英名:2011 Special Olympics World Summer Games)

① 開催国・開催都市

ギリシャ共和国　アテネ

② 開催日程

2011 年 6 月 25 日(土)～7 月 4 日(月)までの 10 日間

③ 運営主体

the ATHENS 2011 Games Organizing Committee (GOC)

④ 参加国数・選手数

170 か国・8,991 人 (選手:6,813 人、コーチ・役員:2,178 人)

⑤ 実施競技数・競技名

22 競技 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレー、SO ボッチャ、ボウリング、自転車、馬術、サッカー、ゴルフ、体操競技(＋新体操)、ハンドボール、柔道、カヤック、重量挙げ、ローラースケート、セーリング、ソフトボール、水泳、卓球、テニス、バレーボール)
うち、日本選手は 9 競技(陸上競技、バドミントン、ボウリング、ゴルフ、体操競技、水泳、卓球、テニス、バレーボール)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

75 人 (アスリート:52 人、コーチ・役員:23 人)

⑦ 会場

開・閉会式の会場である「Kallimarmaro Panathinaikon Stadium」は、元々の建設は紀元前で、近代オリンピックの初回開催(1896 年)に向けて修復され、スタンドは大理石造り。2004 年アテネオリンピックでは男女マラソンのゴール地点とアーチェリーの会場
メイン会場の「OAKA」は、1982 年のヨーロッパ陸上競技選手権大会開催のために建設されたもので、2004 年アテネオリンピックのメイン競技場

会場名	実施競技等	概要
OAKA(アテネ・オリンピックスタジアム)	陸上競技、水泳、バスケットボール、重量挙げ、テニス、バレーボール	75,000 人収容
Hellinikon Olympic Complex	バドミントン、ハンドボール、自転車、ソフトボール、体操競技、新体操、サッカー	
SEF　Stadium	ビーチバレーバレー、SO ボッチャ、ローラースケート、卓球	
Blanos Sports Park - Spata	ボウリング	
Markopoulo Olympic Equestrian Center	馬術	
"APILION" Panionios Training Center - Koropi	サッカー	
Glyfada Golf Course	ゴルフ	
the American College of Greece - DEREE Gym, Aghia Paraskevi	柔道	
Schinias Olympic Rowing & Canoeing Center	カヤック	
Sailing Academy Schinias	セーリング	
Kallimarmaro Panathinaikon Stadium	開会式、閉会式	45,000 人収容

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・ 選手数	日本選手団 派遣選手数	その他
陸上競技	6/26-7/3	165 か国・ 1,050 人	8 人	
バドミントン	6/26-7/3	42 か国・154 人	4 人	
バスケットボール	6/25-7/3		0 人	
ビーチバレー	6/30	-	0 人	
SO ボッチャ	6/26-7/3	-	0 人	
ボウリング	6/26-7/3	49 か国・289 人	8 人	
自転車	6/26-7/3	-	0 人	
馬術	6/27-7/3	-	0 人	
サッカー	6/26-7/3		0 人	
ゴルフ	6/27-7/2	26 か国・132 人	2 人	
体操競技 新体操	6/26-29 6/30-7/3	36 か国・164 人	4 人	
ハンドボール	6/26-7/1	-	0 人	
柔道	6/28-7/2	-	0 人	
カヤック	6/28-7/2	-	0 人	
重量挙げ	6/27-7/3	-	0 人	
ローラースケート	6/26-30	-	0 人	
セーリング	6/27-7/3	-	0 人	
ソフトボール	6/27-7/2	-	0 人	
水泳	6/26-7/3	118 か国・680 人	6 人	
卓球	6/26-7/3	72 か国・252 人	4 人	
テニス	6/26-7/3	33 か国・150 人	4 人	
バレーボール	6/26-7/3	18 か国・268 人	12 人	

・開会式：6/25

・閉会式：7/4

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】　　【マスコット】

⑩ その他の特記事項

【開催決定の経緯】
他の候補国はモロッコとアメリカ合衆国であった。

【観客数】
開会式が 40,000 人、閉会式が 30,000 人であった。

【ボランティア】
2009 年 3 月より 2 年以上かけてギリシャ国内外からボランティア募集し、配置、トレーニング等の準備を行ったのち、25,000 人がボランティアとして参加した。

【宿泊施設】
ホテルとオリンピック村 SOV(Special Olympics Village)が宿泊施設となった。
このうち、SOV はアテネ市や省庁、軍や警察などが所有する 6 つの施設(キャンプ)から構成された。

⑥　夏季デフリンピック競技大会

(1) 大会の概要

夏季デフリンピック競技大会
(英名：Summer Deaflympics)

1　開催趣旨

聴覚障害者の最高峰の大会で、パラリンピックより歴史が古い。コミュニケーションが全て国際手話によって行われ、競技は基本的にオリンピックと同じルールで運営。

＜デフリンピック規約の基本原則＞
- ろうのスポーツ選手の肉体的・精神的幸福
- ろう者が高レベルのスポーツ競技に参加する機会の提供
- 4 年に一度のスポーツ競技会への世界中の選手の集結
- 国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)の原則の世界への推進と、それによるろうコミュニティ中の国際親善の構築

2　主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○国際ろう者スポーツ委員会 (International Committee of Sports for Deaf、略称：ICSD)

Maison du Sport International
Av. de Rhodanie 54, Lausanne, CH-1007
Switzerland

会長：Rebecca Adam

URL：http://www.ciss.org/icsd

○全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 (Japanese Federation of the Deaf Sports Committee)

〒162-0801
東京都新宿区山吹町 130 SK ビル 8 階

委員長：小椋武夫

URL：https://www.jfd.or.jp/sc/

3　開催頻度

4 年に 1 度

4　参加対象となる選手の障害種別等

聴覚障害
補聴器をはずした裸耳状態での聴力損失が 55 デシベルを超えている者で、各国のろうスポーツ協会に登録している者

5　開催都市の決定方法

以下、開催都市の決定方法について、「デフリンピック規約」より抜粋。

DG3. 招致手続

1. 夏季デフリンピック又は冬季デフリンピックを招致しようとする国内連盟又は団体は、実際にデフリンピックが開催される 9 年前に、開催予定の都市及び日程を含む申請書類を事務局に提出しなければならない。

2. 加盟国の都市(商工会議所、観光局など)による夏季デフリンピック又は冬季デフリンピックの招致も受け入れることができる。

3. デフリンピックの開催申請書には以下の組織の支持証明書を添付するものとする。

   1. 政府(又は省)

   2. 市長室

   3. 国内オリンピック委員会

   4. 該当する国内ろう者競技連盟

4. 提出期限は執行委員会により決定され、提出期限の 12 か月以上前に公表される。

5. 大会開催地は、該当デフリンピックの 6 年前に開かれる評議員会で正式に決定される。

6. 大会開催申請書には以下の内容を含めなければならない。

   1. デフリンピック開催に立候補する都市及び期間

   2. ホテル、食事、現地交通手段の現行価格一覧

7. デフリンピック開催を申請する国内連盟は、現地視察の実施の前に、現行の ICSD「デフリンピック規約」に従うことに同意する契約書に署名しなければならない。

8. デフリンピックを招致しようとする国内連盟は、ICSD 会長又はその代理人による都市への現地視察を手配しなければならない。現地視察は、その国でのデフリンピックの開催が提案される月と同じ月に行われなければならない。

9. 視察の前に事務局が DG3.の 3、6 及び 7 に挙げる文書を受けとっていない場合、現地視察は行われないものとする。

10. 評議員会に出席した適任の国内連盟により記録された投票の単純過半数をもって、評議員会がデフリンピック開催地を宣言するものとする。

11. 第 1 回の投票でどの候補地も投票数の過半数を得られなかった場合、1 つの候補地が過半数を得るまで、追加投票を行わなければならない。

12. 2 つの都市が投票で同じ票数であった場合、最終投票が行われる前に、都市の代表者それぞれが 5 分間のプレゼンテーションを行い、質問に答えるよう促される。しかし、その後も票数が同じとなった場合、2 つの候補都市の名を箱に入れ、ICSD 会長がそのうちの 1 つを引いて、その市をデフリンピック開催都市として発表することとする。

これまでの開催地は以下のとおり

開催年	開催国	開催都市	備考
1924 年	フランス	パリ	
1928 年	オランダ	アムステルダム	
1931 年	ドイツ	ニュルンベルク	
1935 年	イギリス	ロンドン	
1939 年	スウェーデン	ストックホルム	
1949 年	デンマーク	コペンハーゲン	
1953 年	ベルギー	ブリュッセル	
1957 年	イタリア	ミラノ	
1961 年	フィンランド	ヘルシンキ	
1965 年	アメリカ	ワシントン	
1969 年	ユーゴスラビア	ベオグラード	
1973 年	スウェーデン	マルメ	
1977 年	ルーマニ	ブカレスト	
1981 年	西ドイツ	ケルン	
1985 年	アメリカ	ロサンゼルス	
1989 年	ニュージーランド	クライストチャーチ	
1993 年	ブルガリア	ソフィア	
1997 年	デンマーク	コペンハーゲン	
2001 年	イタリア	ローマ	
2005 年	オーストラリア	メルボルン	
2009 年	台湾	台北	
2013 年	ブルガリア	ソフィア	
2017 年	トルコ	サムスン	

(2) 第 23 回夏季デフリンピック競技大会
(英名：23rd Summer Deaflympics)

① 開催国・開催都市

トルコ共和国　サムスン

② 開催日程

2017 年 7 月 18 日(火)～7 月 30 日(日)までの 13 日間

③ 運営主体

第 23 回夏季デフリンピック競技大会組織委員会 (the 23rd Summer Deaflympics Organizing Committee)

【スポンサー】
Turkish Airlines Company、Akdağ Co. Ltd.、Doğuş Medical Hearing Systems

④ 参加国数・選手数

86 か国、選手 2,859 人 (男子：1,913 人、女子：960 人)

⑤ 実施競技数・競技名

21 競技 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレー、ボウリング、サイクリング、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、マウンテンバイク、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング：グレコローマン、レスリング：フリースタイル)
うち、日本選手は 11 競技(陸上、バドミントン、ビーチバレー、サイクリング、サッカー、空手、マウンテンバイク、水泳、卓球、テニス、バレーボール)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

177 人 (選手：108 人、役員：69 人)
金メダル：3 競技 6 個　銀メダル：2 競技 9 個　銅メダル：6 競技 12 個

	金	銀	銅	合計
陸上競技	2	2	2	6
バドミントン	0	0	1	1
ビーチバレー	0	0	0	0
サイクリング	0	0	1	1
サッカー	0	0	0	0
空手	0	0	0	0
マウンテンバイク	0	0	1	1
水泳	3	7	5	15
卓球	0	0	2	2
テニス	0	0	0	0
バレーボール	1	0	0	1
計	6	9	12	27

⑦ 会場

メイン会場である「İlkadım Athletics Fields」は、当大会のためおよそ 850 万 US ドルをかけて建設

会場名	実施競技等	概要
İlkadım Athletics Fields	陸上競技	2,000 人収容
Bafra Sports Hall	バドミントン、ビーチバレー	2013 年オープンの多目的屋内競技場。2,000 人収容
Yol Bisikleti	サイクリング	2,000 人収容
Mountain Bike Trail	マウンテンバイク	2,000 人収容
Canik 19 Mayıs Stadium	サッカー	17,500 人収容
Ataturk Sports Hall	空手、テコンドー、柔道	1,500 人収容
Samsun Olympic Swimming Pool	水泳	2015 年完成。1,000 人収容
Archery Venue	卓球	1,500 人収容
Samsun Tennis Club	テニス	500 人収容
Mustafa Dagistanli Sports Hall	バレーボール	2013 年完成。2,000 人収容
Yaşar Doğu Sports Hall	バスケットボール、閉会式	2013 年完成。7,500 人収容
Samsun Bowling Hall	ボウリング	1,000 人収容
Samsun M.M. Golf Club	ゴルフ	9 ホール
Carsamba Sports Hall	ハンドボール	2,000 人収容
Bafra Şehit M.Serin Shooting V.	射撃	750 人収容
Kavak Sports Hall	レスリング	2015 年完成。750 人収容
Tekkekoy,City center,Bayraktepe, Kocadag,Kabadüz,Yenikoy	オリエンテーリング	
Samsun's new stadium	開会式	33,919 人収容

⑧ 各競技の実施状況

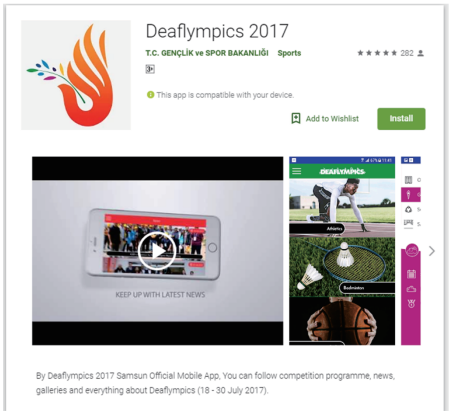
	日程	種目数	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	7/23-29	43	66 か国・465 人	28	
バドミントン	7/19-28	6	23 か国・108 人	6	
バスケットボール	7/19-29	2	男 12 か国、女 9 か国・271 人	-	
ビーチバレー	7/20-29	2	17 か国・73 人	4	
ボウリング	7/20-29	12	32 か国・189 人	-	
サイクリング	7/19-25	8	26 か国・94 人	5	
サッカー	7/18-30	2	男 15 か国、女 6 か国・460 人	20	
ゴルフ	7/21-26	2	12 か国・26 人	-	
ハンドボール	7/20-28	1	7 か国・119 人	-	
柔道	7/20-22	17	30 か国・147 人	-	
空手	7/24-26	18	19 か国・118 人	5	
マウンテンバイク	7/24	2	-	-	
オリエンテーリング	7/21-29	9	12 か国・45 人	-	
射撃	7/19-28	12	20 か国・82 人	-	
水泳	7/20-26	40	36 か国・193 人	9	
卓球	7/20-27	7	30 か国・123 人	3	
テコンドー	7/28-30	13	23 か国・118 人	-	
テニス	7/19-28	5	20 か国・73 人	4	
バレーボール	7/20-28	2	男 10 か国、女 9 か国・238 人	24	
レスリング(2 種目)	7/21-25	16	24 か国・135 人	-	

・開会式:7/18　　・閉会式:7/30

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

【アプリ】



【SNS の活用】
フォロワー数：Facebook(23,224)、Twitter(32,830)、Instagram(12,378)
Youtube チャンネル：登録数(11,504)、再生回数(1,565,251)

【PR】
レストランへテーブルマットやおしぼりの提供、T シャツ、キーホルダー、リストバンド等の配布

【公式マスコット】

⑩ その他の特記事項

【観客数】
開会式は 25,610 人、閉会式は 3,067 人であった。

【ボランティア】
1,518 人(うち、ろう者 227 人)がボランティアとして参加した。
動員されたボランティアは開会式には 297 人(手話通訳 65 人含む)、閉会式には 190 人であった。
ボランティアは、Web(http://www.2017deaflympics.com/en/Application-Volunteer)上で募集したほか、Web 以外に、大学に募集窓口を設けたり各種イベントを実施したりした。
採用後、主に週末に手話などのトレーニングを実施した。

【選手村】
大会開催前にテロ事件が発生したこともあり、保安上の理由から、選手村(Deaflympics Village)を 3 か所開設した。
DV1 (Münevver Ayaşlı 寮、2,028 人収容)
DV2 (Samsun 寮、1,008 人収容)
DV3 (Turgut Özal 寮、1,364 人収容)

【開催経費】
大会開催に係る運営費は 174,789,259 トルコリラ(※1 リラ＝約 32 円)であり、その内訳は以下の通りであった。

(単位:トルコリラ)

International Relations	1,080,083
Sports	1,900,000
Sport Venues	8,109,594
Ceremony and Protocol	17,536,624
Media	11,000,000
Marketing & Public Relations	4,959,695
Accommodation & Food Services	14,141,740
Sign Language & Training	764,300
Health, Anti-Doping & Audiogram	481,655
Volunteer Services	710,000
Spectator Services	150,000
Technology and Accreditation	74,476,000
Security	3,498,000
Transportation	4,418,000
Administrative & Financial Affairs	4,900,800
小計	148,126,491
税	26,662,768
計	174,789,259

会場建設費は 308,622,648 トルコリラであり、その内訳は以下の通りであった。

(単位:トルコリラ)

Samsun Football Stadium	145,000,000
Bafra Şehit M.Serin Shooting Range	12,980,827
Samsun Bowling Hall	14,000,000
Samsun Ice Rink	16,000,000
Samsun Archery Hall	10,000,000
Samsun Athletics Field	21,637,665
Barfa Sports Hall	11,678,204
Barfa Stadium	11,882,425
Carsamba Sports Hall	9,250,000
Atakum Athlete Factory	7,300,000
Samsun Beach Volleyball Field	9,440,000
Samsun Golf Club	20,000,000
Atakum Olympic Swimming Pool	19,453,527
計	308,622,648

出典：DEAFLYMPICS 2017: MANAGEMENT BOOK

(3) 第 22 回夏季デフリンピック競技大会
(英名：22nd Summer Deaflympics)

① 開催国・開催都市

ブルガリア共和国 ソフィア

② 開催日程

2013 年 7 月 26 日(金)～8 月 4 日(日)までの 10 日間

③ 運営主体

ソフィア 2013 デフリンピック競技大会組織委員会 (the 22nd Summer Deaflympics Organizing Committee)

④ 参加国数・選手数

83 か国、選手 2,711 人 (男子：1,792 人、女子：919 人)

⑤ 実施競技数・競技名

18 競技 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレー、ボウリング、自転車、サッカー、ハンドボール、柔道、空手、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング)
うち、日本選手は 12 競技(陸上、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレー、自転車、サッカー、柔道、オリエンテーリング、水泳、卓球、テニス、バレーボール)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

219 人 (選手：149 人、役員：70 人)
金メダル：2 競技 2 個 銀メダル：5 競技 10 個 銅メダル：5 競技 9 個

	金	銀	銅	合計
陸上競技	0	2	3	5
バドミントン	0	0	0	0
バスケットボール	0	0	0	0
ビーチバレー	0	0	0	0
自転車	0	0	1	1
サッカー	0	0	0	0
柔道	0	1	2	3
オリエンテーリング	0	0	0	0
水泳	1	5	2	8
卓球	1	1	1	3
テニス	0	0	0	0
バレーボール	0	1	0	1
計	2	10	9	21

⑦ 会場

会場名	実施競技等	概要
Vassil Levski Stadium	陸上競技(決勝)、サッカー(決勝)、閉会式	1953 年完成。国内で 2 番目に大きいスタジアムで収容人数は 44,000 人
Hristo Botev Hall	バドミントン	
National Sports Academy	ハンドボール、空手、テコンドー、ビーチバレー、柔道	国立体育大学
Zepaden Park	オリエンテーリング	
Spartak	水泳	
Winter Palace	卓球	
Arena Armeec	バスケットボール(決勝)、バレーボール(決勝)、開会式	2011 年完成。12,373 人収容の屋内多目的競技場
Dema Sports Club	テニス	
Sky City Mall	ボウリング	
Geo Milev Shooting Range	射撃	
Borisova gradina Velodrome	自転車	
CSKA Stadium	レスリング	

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	7/30-8/3	-	26 人	
バドミントン	7/27-8/2	-	2 人	
バスケットボール	7/25-8/4	-	23 人	
ビーチバレー	7/26-8/4	-	4 人	
ボウリング	7/26-8/4	-	-	
自転車	7/27-8/2	-	7 人	
サッカー	7/25-8/4	-	41 人	
ハンドボール	7/28-8/3	-	-	
柔道	8/2-4	-	5 人	
空手	7/30-8/1	-	-	
オリエンテーリング	7/29-8/2	-	1 人	
射撃	7/25-8/3	-	-	
水泳	7/27-8/2	-	6 人	
卓球	7/27-8/3	-	7 人	
テコンドー	7/27-29	-	-	
テニス	7/26-8/4	-	3 人	
バレーボール	7/25-8/3	-	24 人	
レスリング	7/29-30 8/2-3	-	-	

・開会式:7/26
・閉会式:8/4

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

⑩ その他の特記事項

当初、ギリシャのアテネで開催予定だったが、経済危機により辞退したため、ICSD からの要請を受けて、ソフィアで開催することとなった。

(4) 第 21 回夏季デフリンピック競技大会
(英名:21st Summer Deaflympics)

① 開催国・開催都市

台湾　台北

② 開催日程

2009 年 9 月 5 日(土)～9 月 15 日(火)までの 11 日間

③ 運営主体

台北 2009 デフリンピック競技大会組織委員会 (21st Summer Deaflympics Organizing Committee)

【スポンサー】
Metlife、 Chunghwa Telecom、 Delta Group、 Giant Bicycles、 PX Mart、 Quaker Oats Company、 Luxgen、 7-Eleven、 China Airlines、 Samsung、 Formosa、 Nike、 Rotary International、 Phoenix Channel、 Victor、 SECOM、 Coca-Cola、等

④ 参加国数・選手数

77 か国、選手 2,493 人 (男子:1,714 人、女子:779 人)

⑤ 実施競技数・競技名

19 競技 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレー、ボウリング、自転車、サッカー、ハンドボール、柔道、空手、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、水球、レスリング)
うち、日本選手は 12 競技(陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレー、ボウリング、サッカー、柔道、空手、水泳、卓球、テニス、バレーボール)に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

244 人 (選手:154 人、役員:90 人)
金メダル:4 競技 5 個　銀メダル:4 競技 6 個　銅メダル:6 競技 9 個

	金	銀	銅	合計
陸上競技	1	2	2	5
バドミントン	0	0	1	1
バスケットボール	0	0	0	0
ビーチバレー	0	0	0	0
ボウリング	0	1	0	1
サッカー	0	0	0	0
柔道	1	0	0	1
空手	2	0	0	2
水泳	1	0	2	3
卓球	0	2	2	4
テニス	0	1	1	2
バレーボール	0	0	1	1
計	5	6	9	20

⑦ 会場

台北スタジアムは、デフリンピック開催のため建て替えられた競技場
台北アリーナ(体育館)、松山スポーツセンターと合わせた「台北体育園区」(Taipei City Sports Park)の整備のため、台北市は 24 億台湾ドルを投じた

会場名	実施競技等	概要
Taipei Stadium(台北スタジアム)	陸上競技、サッカー(決勝)、開会式、閉会式	IAAF(国際陸上競技連盟)のクラス 1 認定。20,000 人収容
Taipei Gymnasium	バドミントン、バスケットボール	1994 年完成。2,300 人収容
Pacific Green Bay	ビーチバレー	
Xinqiaofu Bowling Center	ボウリング	
Chenggong Senior High School	ハンドボール	台北市立成功高級中学
Taiwan Police College	柔道	台湾警察専科学院
Nangang Sports Center	空手	
Yangmingshan National Park	オリエンテーリング	陽明山国立公園
Gongxi Shooting Range	射撃	
Hsinchu County Swimming Plaza	水泳、水球	
Taipei Arena	卓球	2005 年完成。メインアリーナの収容人数は 15,082 人
National Taipei University of Education	テコンドー	国立台北教育大学
Rainbow Riverside Sport Park	テニス	彩虹河浜公園
National Taiwan University/Xinzhuang Stadium	バレーボール	台湾大学／新荘体育館
Northern Coast Highway, Taipei City Hall Plaza	自転車	
Chinese Culture University	レスリング	中国文化大学

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・ 選手数	日本選手団 派遣選手数	その他
陸上競技	9/7-14	49 か国・342 人 (男 228・女 114)	18 人	
バドミントン	9/6-14	20 か国・11 人 (男 58・女 53)	8 人	
バスケットボール	9/6-14	17 か国・271 人 (男 166・女 105)	24 人	
ビーチバレー	9/6-14	21 か国・82 人 (男 42・女 40)	4 人	
ボウリング	9/8-14	39 か国・213 人 (男 147・女 66)	5 人	
自転車	9/6-12	16 か国・42 人 (男 42・女 0)	-	
サッカー	9/4-15	16 か国・424 人 (男 297・女 127)	41 人	
ハンドボール	9/6-12	6 か国・81 人 (男 81・女 0)	-	
柔道	9/8-10	21 か国・66 人 (男 48・女 18)	5 人	
空手	9/7-8	12 か国・30 人 (男 25・女 5)	2 人	
オリエンテーリング	9/8-13	14 か国・49 人 (男 31・女 18)	-	
射撃	9/6-14	15 か国・57 人 (男 38・女 19)	-	
水泳	9/7-13	39 か国・168 人 (男 114・女 54)	10 人	
卓球	9/6-14	29 か国・126 人 (男 76・女 50)	8 人	
テコンドー	9/6-9	17 か国・41 人 (男 26・女 15)	-	
テニス	9/6-13	18 か国・53 人 (男 34・女 19)	4 人	
バレーボール	9/6-13	14 か国・199 人 (男 116・女 83)	25 人	
水球	9/6-13	5 か国・59 人 (男 59・女 0)	-	
レスリング	-	-	-	

・開会式:9/5

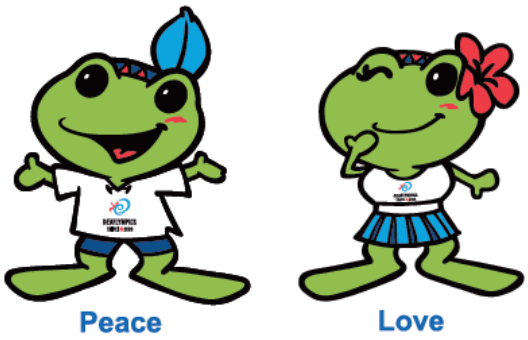
・閉会式:9/15

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

DEAFLYMPICS
TAIPEI 2009

【マスコット】



⑩ その他の特記事項

【開催決定の経緯】
国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)の 2003 年の投票において台湾が 52 票を獲得し、ギリシャのアテネ(32 票)を抑えて選出され、アジアで初めて夏季デフリンピックが開催されることが決まった。

【ボランティア】
個人ボランティア、学生ボランティア、企業等の団体ボランティア、国際ボランティア合わせて 10,000 人以上を募集した。手話を含めたトレーニングを行う必要ありとのこと。

【開催経費】
大会開催に係る経費は 53,791,544 US ドルで、その内訳は以下の通りであった。

(単位:US ドル) (※1 ドル＝約 93 円)

Administrative	24,747,350
Logistics & Security	2,181,156
Competition	7,347,529
Community Liaison & School Service	1,747,833
Art Center	9,470,745
Marketing & Media	2,725,702
Venues	4,767,241
Information Technology	803,989
計	53,791,544

出典: DEAFLYMPICS TAIPEI 2009: FINAL REPORT

⑦　アジアパラ競技大会

(1) 大会の概要

アジアパラ競技大会
(英名：Asian Para Games)

1 開催趣旨

1975 年より 9 回にわたり開催してきたフェスピック競技大会の実績を引き継ぐとともに、アジア地域におけるパラリンピック・ムーブメントの推進と競技スポーツのさらなる進展を図るために開催するアジア地域の障がい者総合スポーツ大会。

4 年に一度、国際パラリンピック委員会(IPC)の地域委員会である APC が主催する。

正式競技は規定されていないが、基本的な考え方としては、パラリンピック正式競技のうちアジア地域で一定の参加数が見込める競技と、フェスピック大会実施競技としての実績のある競技の中から決定される。

以下、「インドネシア 2018 アジアパラ競技大会　競技プログラム概要」より抜粋。

> アジアパラ競技大会は、アジア地域において最高水準の選手の卓越性と多様性を反映する、身体障がい、視覚障がい、知的障がいをもつ選手のための地域総合競技大会です。
>
> アジアパラ競技大会の競技プログラムの目標は、観客を引き込み、楽しませながら、選手が優れたパフォーマンスを発揮できるエキサイティングで刺激的な大会を提供することです。

2 主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○アジアパラリンピック委員会 (Asian Paralympic Committee、略称：APC)

P.O. Box 20990, Dubai, United Arab Emirates

会長：Majid Rashed (マジット・ラシェッド)

その他の主な役員：
副会長：Mr. Masayuki Mizuno
副会長：Ms. Zhao Su-jing
副会長：Ms. Jang Hyang Sook
委員：　Mr. Abdulraheem Alsheikh
委員：　Mr. Keng Chuan Ng
アスリート委員会委員長：Mr. Jeong Min Lee

URL：https://asianparalympic.org/

○日本パラリンピック委員会 (Japanese Paralympic Committee)

〒103-0014
東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6　ユニゾ水天宮ビル 3 階
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会内

会長：　鳥原光憲
委員長：山脇康

URL：http://www.jsad.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/

3 開催頻度

4 年に 1 度

4　参加対象となる選手の障害種別等

身体障害、視覚障害、知的障害

5　開催都市の決定方法

アジア競技大会と同じ開催地で開催される。

また、競技会場は、原則として先立って開催されたアジア競技大会で使用された会場が使用される。

これまでの開催地および開催予定は以下のとおり。

開催年	開催国	開催都市	備考
2010 年	中国	広州	
2014 年	韓国	仁川	
2018 年	インドネシア	ジャカルタ	
2022 年 予定	中国	杭州	
2026 年 予定	日本	名古屋	

(2) インドネシア 2018 アジアパラ競技大会
(英名：Indonesia 2018 Asian Para Games)

① 開催国・開催都市

インドネシア共和国　ジャカルタ

② 開催日程

2018 年 10 月 6 日(土)～13 日(土)までの 8 日間

③ 運営主体

インドネシア 2018 アジアパラ競技大会組織委員会 (INAPGOC)

【スポンサー】
OFFICIAL PRESTIGE PARTNERS としてインドネシアテレコムなど 8 社
OFFICIAL SPONSORS としてサムスン、マスターカードなど 5 社
SUPPORTING SPONSORS として NEC など 9 社

④ 参加国数・選手数

43 か国・地域　2,768 人

⑤ 実施競技数・競技名

18 競技 (アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、チェス、自転車、ゴールボール、柔道、ローンボウルズ、パワーリフティング、射撃、水泳、卓球、テンピンボウリング、シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス)
うち、日本選手はチェスを除く 17 競技に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

484 人 (選手：304 人、競技パートナー：12 人、競技役員：147 人、本部役員：21 人)
金メダル：6 競技 45 個　銀メダル：11 競技 70 個　銅メダル：12 競技 83 個

	金	銀	銅	合計
アーチェリー	0	2	0	2
陸上競技	13	24	14	51
バドミントン	0	1	6	7
ボッチャ	0	0	1	1
自転車	3	2	4	9
ゴールボール	1	0	0	1
柔道	0	1	8	9
ローンボウルズ	0	0	0	0
パワーリフティング	0	0	1	1
射撃	0	0	0	0
水泳	23	28	29	80
卓球	1	2	8	11
テンピンボウリング	0	3	1	4
シッティングバレーボール	0	0	1	1
車いすバスケットボール	0	2	0	2
車いすフェンシング	0	2	7	9
車いすテニス	4	3	3	10
計	45	70	83	198

⑦ 会場

Gelora Bung Karno(GBK) Sporting Complex はジャカルタ市の中心に立地
メイン会場である「GBK Main Stadium」は、1962 年アジア競技大会開催のために作られ、その後、改修し、2018 年リニューアルオープン

会場名	実施競技等	概要
GBK Main Stadium	開会式、陸上競技	77,193 人収容
GBK Aquatic Centre	水泳	7,800 人収容
GBK Istora	バドミントン	7,166 人収容
GBK Tennis Indoor	シッティングバレーボール	3,750 人収容
Jakarta International Velodrome	自転車	3,000 人収容
GBK Basketball Hall	車いすバスケットボール	2,400 人収容
GBK Hockey Field	ローンボウルズ	818 人収容
GBK Archery Field	アーチェリー	293 人収容
Balai Kartini	ゴールボール	
Balai Sudirman	パワーリフティング	
Cempaka Putih Sports Hall	チェス	
Ecovention Ancol	卓球	
GBK Senayan Shooting Range	射撃	
Jaya Ancol Bowling Center	テンピンボウリング	
JI Expo Gramd Ballroom	柔道	2010 年完成
Klub Kelapa Gading	車いすテニス	
POPKI Cibubur	車いすフェンシング	
Tanjung Priok Sports Hall	ボッチャ	
GBK Madya Stadium	閉会式	9,170 人収容

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
アーチェリー	10/10-11	-	13 人	
陸上競技	10/8-12	-	68 人	
バドミントン	10/6-13	-	20 人	
ボッチャ	10/10-12	-	9 人	
チェス	10/7-12	-		
自転車	10/8-13	-	4 人	
ゴールボール	10/7-12	-	12 人	
柔道	10/8-11	-	12 人	
ローンボウルズ	10/7-12	-	3 人	
パワーリフティング	10/7-12	-	11 人	
射撃	10/8-12	-	6 人	
水泳	10/7-12	-	46 人	
卓球	10/6-13	-	24 人	
テンピンボウリング	10/8-11	-	10 人	
シッティングバレーボール	10/7-11	-	23 人	
車いすバスケットボール	10/6-13	-	24 人	
車いすフェンシング	10/7-11	-	10 人	
車いすテニス	10/7-12	-	9 人	

・開会式:10/6　　・閉会式:10/13

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

INDONESIA 2018 ASIAN PARA GAMES

【マスコット】

⑩ その他の特記事項

【チケット販売】
開会式チケットの価格帯は、500,000 ルピア(Rp) (※1 ルピア＝約 0.0077 円)、750,000Rp、1,500,000Rp、2,500,000Rp であった。なお、一部は無料配布した。
競技観戦チケット(GBK complex の場合)は、入場料が 10,000Rp、1 競技観戦チケットが 25,000Rp、1 日観戦チケットが 100,000Rp、6 日間観戦チケットが 200,000Rp であった。
チケットは 2018 年 9 月 20 日に発売し、全チケットの 7 割はオンライン販売で、3 割はオフライン販売であった。
観客動員のため、1 日当たり 16,000 枚の無料観戦チケットを配布した。内訳は、学生向け:8,000 枚、社会福祉省配布分:5,000 枚、他の省庁配布分:3,000 枚であった。
さらに、競技終盤の 2 日間で、1 日当たり 6,000 枚の学生向け無料観戦チケットを追加配布した。この追加配布による効果もあって、競技終盤の 2 日間で計 20,000 枚のチケットを販売したとのこと。

【ボランティア】
7,500 人がボランティアとして参加した。
2018 年 4 月 21 日に募集を開始し、6 月 2 日締め切り(当初は 5 月 31 日締め切り予定)までに、約 17,000 人の応募があった。

【開会式】
”Unity in Diversity”のテーマのもと、1,500 人のパフォーマーが演技を披露した開会式には、ジョコ大統領も出席した。

【保安対策】
大会期間中の身分証明書および選手村や会場等へのアクセス許可証としてアクレカード(APGIAC: the Asian Para Games Identity and Accreditation Card)を発行。

【バリアフリー対応】
選手村のバリアフリー対応は、以下のとおりであった。
バスルーム: 居住スペースには車いす使用者 2～3 人につき 1 つ(またはそれ以上)の基準で設置。
寝室: 車いすが回転するスペースが確保されている。

(3) インチョン 2014 アジアパラ競技大会 (英名：Incheon Asian Para Games)

① 開催国・開催都市

大韓民国　インチョン

② 開催日程

2014 年 10 月 18 日(土)～24 日(金)までの 7 日間

③ 運営主体

インチョン 2014 アジパラ競技大会組織委員会 (IAPGOC)

【スポンサー】
PRESTIGE PARTNERS として SK テレコムなど 2 社
PARTNERS としてブラックヤクなど 2 社
SPONSORS として大韓航空など 3 社

④ 参加国数・選手数

41 か国・地域　2,497 人

⑤ 実施競技数・競技名

23 競技 (アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、自転車、5 人制サッカー、7 人制サッカー、ゴールボール、柔道、ローンボウルズ、パワーリフティング、ローイング、セーリング、射撃、シッティングバレーボール、水泳、卓球、車いすバスケットボール、車いすダンス、車いすフェンシング、車いすラグビー、車いすテニス、テンピンボウリング)
うち、日本選手はテンピンボウリングを除く 22 競技に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

476 人 (選手:285 名、競技アシスタント:17 名、競技役員:147 名、本部役員:27 名)
金メダル:6 競技 38 個　銀メダル:12 競技 49 個　銅メダル:13 競技 56 個

	金	銀	銅	合計
アーチェリー	0	0	1	1
陸上競技	14	15	13	42
バドミントン	0	0	3	3
ボッチャ	0	1	0	1
自転車	3	4	0	7
5 人制サッカー	0	1	0	1
7 人制サッカー	0	1	0	1
ゴールボール	0	0	2	2
柔道	0	4	4	8
ローンボウルズ	0	0	1	1
パワーリフティング	0	0	1	1
ローイング	0	1	1	2
セーリング	0	1	0	1
射撃	0	0	0	0
シッティングバレーボール	0	0	1	1
水泳	16	14	22	52
卓球	1	1	5	7
車いすバスケットボール	0	2	0	2
車いすダンス	0	0	1	1
車いすフェンシング	0	0	0	0
車いすラグビー	1	0	0	1
車いすテニス	3	4	1	8
計	38	49	56	143

⑦ 会場

会場名	実施競技等	概要
Munhak Stadium	開会式、閉会式	2002 年完成。49,084 人収容
Samsan World Gymnasium	車いすバスケットボール	7,220 人収容
Namdong Asiad Rugby Field	7 人制サッカー	5,078 人収容
Dowon Gymnasium	柔道	3,500 人収容
Gyeyang Asiad Archery Field	アーチェリー	2014 年完成。3,000 人収容
Anyang Hogye Gymnasium	テンピンボウリング	
Asiad Main Stadium	陸上競技	
Ganghwa Dolmens Gymnasium	車いすダンス	
Gyeyang Gymnasium	バドミントン	
Hanam Misari Rowing Center	ローイング	
Incheon Grand Park Lawnbowl Venue	ローンボウルズ	
Moonlight Festival Garden Powerlifting Venue	パワーリフティング	
Munhak Park Tae-hwan Aquatics Center	水泳	
Namdong Gymnasium	ボッチャ	
Ongnyeon International Shooting Range	射撃	
Seonhak Gymnasium	車いすラグビー	
Seonhak Hockey Stadium	5 人制サッカー	
Seonhak International Ice Rink	ゴールボール	
Songdo Global University Concert Hall	車いすフェンシング	
Songdo Global University Gymnasium	卓球	
Songlim Gymnasium	シッティングバレーボール	
TrackIncheon International Velodrome、RoadSongdo Road Cycling Course	自転車	
Wangsan Sailing Marina	セーリング	
Yeorumul Tennis Courts	車いすテニス	

⑧ 各競技の実施状況

	日程	種目数	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
アーチェリー	10/20-23	13	-	11 人	
陸上競技	10/19-24	152	-	40 人	
バドミントン	10/19-23	15	-	20 人	
ボッチャ	10/19-24	7	-	11 人	
自転車	10/19-24	19	-	5 人	
5 人制サッカー	10/19-23	1	-	8 人	
7 人制サッカー	10/19-23	1	-	14 人	
ゴールボール	10/19-23	2	-	12 人	
柔道	10/19-23	16	-	11 人	
ローンボウルズ	10/19-22		-	2 人	
パワーリフティング	10/19-24		-	10 人	
ローイング	10/19-20	2	-	3 人	
セーリング	10/19-22	2	-	4 人	
射撃	10/19-23		-	2 人	
シッティングバレーボール	10/19-23		-	20 人	
水泳	10/19-23		-	40 人	
卓球	10/19-24		-	17 人	
車いすバスケットボール	10/16-24	2	-	24 人	
車いすダンス	10/20-21		-	10 人	
車いすフェンシング	10/19-22		-	2 人	
車いすラグビー	10/19-22	1	-	12 人	
車いすテニス	10/18-23		-	7 人	
テンピンボウリング	10/19-21	12	-	-	

・開会式：10/18　　・閉会式：10/24

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

INCHEON 2014
ASIAN PARA GAMES

【マスコット】

(4) 広州 2010 アジアパラ競技大会
(英名：Guangzhou 2010 Asian Para Games)

① 開催国・開催都市

中華人民共和国　広州

② 開催日程

2010 年 12 月 12 日(日)～19 日(日)までの 8 日間

③ 運営主体

広州 2010 アジアパラ競技大会組織委員会 (GAPGOC)

【スポンサー】
PARTNERS として 361°など 5 社
SPONSORS として中国工商銀行など 3 社

④ 参加国数・選手数

41 か国・地域　3,798 人(選手 2,512 人　役員 1,286 人)

⑤ 実施競技数・競技名

19 競技 (アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、自転車、5 人制サッカー、7 人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ローイング、射撃、水泳、卓球、テンピンボウリング、シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス)

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

359 人(選手 223 人、役員 136 人-うち、本部役員：23 人)
金メダル：8 競技 32 個　銀メダル：9 競技 39 個　銅メダル：6 競技 32 個

	金	銀	銅	合計
アーチェリー	2	0	0	2
陸上競技	5	5	9	19
バドミントン	1	0	2	3
ボッチャ	0	0	0	0
自転車	2	3	0	5
5 人制サッカー	0	0	0	0
7 人制サッカー	0	0	1	1
ゴールボール	0	1	0	1
柔道	3	3	3	9
パワーリフティング	0	0	0	0
ローイング	0	2	0	2
射撃	0	0	1	1
水泳	15	20	16	51
卓球	0	0	0	0
テンピンボウリング	0	2	0	2
シッティングバレーボール	0	1	0	1
車いすバスケットボール	2	0	0	2
車いすフェンシング	0	0	0	0
車いすテニス	2	2	0	4
計	32	39	32	103

⑦ 会場

会場名	実施競技等
Guangdong Olympic Stadium (Chief stadium)	開・閉会式、陸上競技
Aoti Aquatic Centre	水泳
Aoti Archery Range	アーチェリー
Aoti Hockey Field	5 人制サッカー
Aoti Shooting Range	射撃
Asian Games Town Gymnasium	パワーリフティング
Asian Games Town Gymnasium	卓球
Guangda Gymnasium	車いすフェンシング
Guangdong International Rowing Centre	ローイング
Guanggong Gymnasium	ゴールボール
Guangwai Gymnasium	シッティングバレーボール
Guangyao Gymnasium	車いすバスケットボール
Huagong Gymnasium	柔道
Huagong Stadium	7 人制サッカー
Tianhe Bowling Hall	テンピンボウリング
Tianhe Gymnasium	バドミントン
Tianhe Tennis School	車いすテニス
Guangzhou Velodrome	自転車(Track)
University Town Triathlon Venue	自転車(Road)
Zhongda Gymnasium	ボッチャ

⑧ 各競技の実施状況

	日程	種目数	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
アーチェリー	12/13-17	9	-	11 人	
陸上競技	12/14-19	120	-	20 人	
バドミントン	12/13-18	13	-	11 人	
ボッチャ	12/13-18	4	-	5 人	
自転車	12/13-18		-	8 人	
5 人制サッカー	12/13-18	1	-	14 人	
7 人制サッカー	12/13-18	1	-	12 人	
ゴールボール	12/13-18	2	-	11 人	
柔道	12/14-17	12	-	2 人	
パワーリフティング	12/13-18	20	-	10 人	
ローイング	12/13-15	4	-	3 人	
射撃	12/13-17		-	4 人	
水泳	12/13-17	38	-	20 人	
卓球	12/14-19	20	-	40 人	
テンピンボウリング	12/14-16	10	-	17 人	
シッティングバレーボール	12/13-18	2	-	2 人	
車いすバスケットボール	12/13-18	2	-	24 人	
車いすフェンシング	12/14-16	12	-	10 人	
車いすテニス	12/13-18	4	-	2 人	

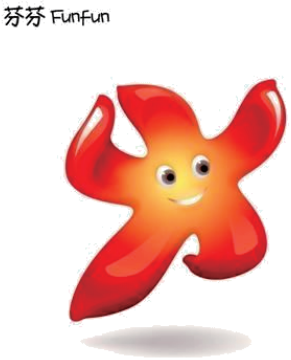
・開会式:12/12　　・閉会式:12/19

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

GUANGZHOU2010
ASIAN PARA GAMES

【マスコット】



⑩ その他の特記事項

【チケット販売と観客数】
開・閉会式のみ有料で、競技観戦チケットは無料であった。
大会の総観客数は 470,000 万人であった。

新華社の報道によると、広州市民にはチケットが配布され、各競技場は平均して収容率 90 パーセント以上の観客で満たされたとのこと。

【ボランティア】
2009 年 4 月 21 日～2010 年 7 月 31 日の期間、ボランティアの募集が行われ、約 25,000 人がボランティアとして参加した。

⑧　スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会

(1) 大会の概要

スペシャルオリンピックスアジア太平洋大会
(英名：Special Olympics Asia Pacific Regional Games)

1 開催趣旨

スペシャルオリンピックス(SO)の、アジア太平洋地域でのリージョナル大会である。
スペシャルオリンピックス(SO)とは、知的障害のある人たちに、オリンピック種目に準じた様々な競技の継続的なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を提供し、知的障害のある人の社会参加を応援する国際的な活動。

2 主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○スペシャルオリンピックス・アジアパシフィック (Special Olympics Asia Pacific)
Tanglin International Center
354 Tanglin Road
#01-11 Tanglin Block
Singapore 247672

会長(Regional President & Managing Director)：Simon Koh

URL：https://www.specialolympics.org/asia-pacific

○スペシャルオリンピックス日本 (Special Olympics Nippon Foundation、略称：SON)
〒105-0003
東京都港区西新橋 2-22-1 西新橋 2 丁目 森ビル 7 階

理事長：有森裕子

URL：http://www.son.or.jp/

3 開催頻度

不明

4 参加対象となる選手の障害種別等

知的障害

5 開催都市の決定方法

これまでの開催地および開催予定は以下のとおり

開催年	開催国	開催都市	備考
2013 年	オーストラリア	ニューカッスル	

(2) 2013 年スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会 (英名：Special Olympics Asia Pacific (SOAP) Regional Games-Newcastle 2013)

① 開催国・開催都市

オーストラリア連邦　ニューカッスル

② 開催日程

2013 年 12 月 1 日(日)～12 月 7 日(土)までの 7 日間
(11 月 28 日～30 日までホストシティ・プログラム開催)

③ 運営主体

the independent Games Organising Committee (GOC)
運営母体は、スペシャルオリンピックス・オーストラリア(SOA)と推測

【スポンサー】
PARTNES として Accor、NSW Government & City of Newcastle、Newcastle Herald、KooGa、Network、TwentyOne

④ 参加国数・選手数

29 か国・地域　2,500 人

⑤ 実施競技数・競技名

9 競技 (水泳、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボッチャ、ボウリング、サッカー、卓球、クリケット)
うち、日本選手団はバスケットボールと サッカーに参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

45 人 (選手：30 人、団長・コーチ・スタッフ：15 人)
バスケットボールでは、4 チーム参加のディビジョン 1 で 4 位、5 チーム参加のディビジョン 2 で 2 位と 5 位。サッカーは 4 チーム参加のディビジョン 1 で4位

⑦ 会場

会場名	実施競技等	概要
Hunter Sports Center	開会式、陸上競技	30,000 人収容
Broadmeadow Basketball Stadium	バスケットボール、卓球	
Charlestown Bowling Club	ボッチャ	
Newcastle Sports Ground No.1	クリケット	
Newcastle Sports Ground No.2、No.4	サッカー	
Newcastle Super Strike	ボウリング	
The Forum (University of Newcastle)	水泳、バドミントン	ニューカッスル大学の施設
Foreshore Park	閉会式	

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・選手数(男・女)	日本選手団派遣選手数	その他
水泳	12/2,3,5,6	-	-	
陸上競技	12/2,3,5,6	-	-	
バドミントン	12/2,3,5,6	-	-	
バスケットボール	12/2,3,5,6	-	24	
ボッチャ	12/2,3,5,6	-	-	
ボウリング	12/2,3,5,6	-	-	
サッカー	12/2,3,5,6	-	6	
卓球	12/2,3,5,6	-	-	
クリケット	12/2,3,5,6	-	-	

・開会式:12/1

・閉会式:12/7

⑨ 大会ロゴマーク等

【ロゴ】

Special Olympics
2013 ASIA PACIFIC GAMES
NEWCASTLE

⑩ その他の特記事項

【チケット販売と観客数】

開会式については、ファミリーチケット(大人 2 人、子供 2 人)が 44 豪ドル(※1 豪ドル＝約 93 円)、Premium Reserved Seat が 30～69 豪ドル、ホスピタリティ・パッケージ、コーポレート・スイート、ファンクション・パッケージがいずれも 150 豪ドルから販売された。

当初の想定観客数は 200,000 人。大会終了後に公表されている開会式の観客数は 25,000 人であった。

※地元紙の報道によると、開会式の観客数は 24,500 人以上であったとのこと。

【ボランティア】
2013 年 5 月 8 日から募集を開始し、3,500 人がボランティアとして参加した。
なお、想定目標は 5,000 人であった。

【競技以外のプログラム】

ホストシティ・プログラムとユニファイド・スポーツ(健常者と知的障害のあるアスリートが混合チームを組み競技を行うプログラム)も実施された。ユニファイド・スポーツのサッカーの試合には、元サッカー日本代表の中田英寿氏が参加した。

閉会式の一環として、参加選手たちは街頭パレードを行った。

【開催経費】
オーストラリア政府が 100 万豪ドルを補助した。

スペシャルオリンピックス・オーストラリア(SOA、主催者ではない)における大会関連経費は、収入:2,704,485 豪ドル、支出:4,210,420 豪ドルであった。(2013 年 SOA アニュアルレポートより)

(以下は、2013 年 SOA アニュアルレポートより抜粋)

The independent Games Organising Committee (GOC) overestimated the revenue to be made.

独立機関である大会組織委員会は、過大な収益見込みを行った。

(以下は、2014 年 SOA アニュアルレポートより抜粋)

From the Chairman

No-one can pretend that 2014 was anything but a very challenging year for the Special Olympics Australia community.

The realisation of the debt resulting from the 2013 Special Olympics Asia Pacific Games and the action required to quickly rectify the situation caused much controversy.

会長からの言葉

スペシャルオリンピックス・オーストラリアにとって、2014 年はとても大変な 1 年でした。

前年に開催したスペシャルオリンピックスアジア・太平洋大会で負った負債への対処については、多くの論争を引き起こしました。

⑨　アジア太平洋ろう者競技大会

(1) 大会の概要

アジア太平洋ろう者競技大会
(英名：Asia Pacific Deaf Games)

1 開催趣旨

アジア太平洋ろう者スポーツ大会の目的は以下のとおりである。

・世界中に国際ろうスポーツ委員会(ICSD)の原則を普及し、ろうコミュニティの国際親善を促進

・ろうスポーツ選手の身体的・精神的幸福のため

・ろう者がエリート・スポーツに参加する機会を提供

・4 年に一度のスポーツ競技において、世界中のろうスポーツ選手が集結

2 主催者等(主催国際団体、日本国内派遣元団体)

○アジア太平洋ろう者スポーツ連合 (Asia Pacific Deaf Sports Confederation)

85, Jalan Julee Perak,
01000 Kangar, Perlis,
Malaysia

会長: Mohammad PARGER
事務総長: David PETERS – Australia
財務担当: Lim Heng TUCK
委員: Enkhbayar JANCHIVNYAMBUU
委員: Haider Majeed Shafi AL

URL：https://www.apdeafsports.org/

○全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会 (Japanese Federation of the Deaf Sports Committee)

〒162-0801
東京都新宿区山吹町 130 SK ビル 8 階

委員長：小椋武夫

URl：https://www.jfd.or.jp/sc/

3 開催頻度

4 年に 1 度

4 参加対象となる選手の障害種別等

聴覚障害

5 開催都市の決定方法

以下、開催都市の決定方法について、「アジア太平洋ろう者スポーツ大会規定(ドラフト版)」より抜粋。

3. 招致の手順

1 加盟団体であるろうスポーツ協会が「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の開催国として立候補する場合、実際の開催日から遅くとも4年前までに、提案する大会開催都市名および大会開催日程を記した立候補申請書を提出しなければならない。

2 アジア太平洋ろう者スポーツ大会の開催立候補申請書には、次の団体・組織からの支援証明文書を添付

すること:

1. 政府(もしくは管轄省庁)
2. 開催都市の市長室
3. 国内オリンピック委員会
4. 申請する国の全国ろうスポーツ協会

3 申請書提出の期限は APDSC の執行委員会(EC)が決定し、提出期限より遅くとも 12 か月前までに発表する。

4 招致は当該の「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の実際の開催時期より 4 年前の評議員会で正式に決定する。

5 「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の開催立候補申請書には、以下の情報が添付されなければならない:

1. 「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の開催地として提案する都市名及び日程、及び
2. 現地の宿泊費、食費、国内交通機関の最新の価格リスト。

6 「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の開催を申請する加盟団体であるろうスポーツ協会は、現地視察が行われる前に、現行の「アジア太平洋ろう者スポーツ大会の規定」に従うことを書面で同意しなければならない。

7 「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の開催を立候補する加盟団体であるろうスポーツ協会は、APDSC 会長もしくはその代理人が開催地調査のためにその都市を訪問できるよう用意しなければならない。この開催地訪問は、「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の開催を提案する月と同じ月に行うべきである。

8 事務総長が、本規程 3 条 2、5、6 項が定める書類をすべて受け取っていない場合は、開催地訪問は行われない。

9 評議員会は、会議に出席している投票権を有する加盟団体による投票を行い、その結果、過半数の票を獲得した候補地を、「アジア太平洋ろう者スポーツ大会」の開催地として宣言する。

10 一回目の投票で、どの候補団体も過半数の票を獲得できなかった場合、二回目の投票が行われなければならない。この場合、最多数の票を獲得した候補団体がアジア太平洋ろう者スポーツ大会の開催権を獲得するものとする。

11 二つの候補地が同数の票を獲得した場合、これらの都市の代表者がそれぞれ 20 分間のプレゼンテーションを行い、会議参加者からの質問に答えたうえで、最終投票が行われる。これらの都市が再度同数の票を獲得した場合、二つの候補地の名前を書いた紙を箱に入れ、会長がいずれかを引いて開催地を決定する。

これまでの開催地は以下のとおり

開催年	開催国	開催都市	備考
1984 年	香港	-	
1986 年	日本	京都	
1988 年	オーストラリア	メルボルン	
1992 年	韓国	ソウル	
1996 年	マレーシア	クアラルンプール	
2000 年	台湾	台北	
2012 年	韓国	ソウル	
2015 年	台湾	桃園	
2019 年	香港	香港	中止

(2) 第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会
(英名：Asia Pacific Deaf Games Taoyuan 2015)

① 開催国・開催都市

台湾　桃園

② 開催日程

2015 月年 10 月 3 日(土)～11 日(日)までの 9 日間

③ 運営主体

2015 桃園アジア太平洋ろう者競技大会組織委員会 (中華台北ろう者スポーツ協会)

【スポンサー】
悦城科技股份有限公司、啟翔輕金屬科技股份有限公司、中榮電瓷工業股份有限公司、和成欣業股份有限公司、東培工業股份有限公司、遠雄航空自由貿易港區(股)公司、聚紡股份有限公司、北健有線電視、黑松(股)公司、全新生醫股份有限公司、人生密碼、台灣華歌爾(股)公司、中壢米堤大飯店、信東生技(股)公司、棋苓股份有限公司、瀚宇興業有限公司、郭祿食品有限公司、盈亮健康科技股份有限公司

④ 参加国数・選手数

22 か国・地域　1,171 人 (2015 年 10 月 3 日時点)

⑤ 実施競技数・競技名

12 競技 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、自転車、サッカー、フットサル、柔道、水泳、卓球、テコンドー、テニス)
うち、日本選手はテコンドーを除く 11 競技に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

192 人 (選手：125 人、競技スタッフ：52 人、本部スタッフ：15 人)
金メダル：5 競技 21 個　銀メダル：8 競技 26 個　銅メダル：7 競技 22 個

	金	銀	銅	合計
陸上競技	6	4	2	12
バドミントン	0	2	2	4
バスケットボール	0	0	0	0
ボウリング	0	0	2	2
自転車	1	1	2	4
サッカー	0	1	0	1
フットサル	0	0	0	0
柔道	1	2	0	3
水泳	12	13	8	33
卓球	0	1	2	3
テコンドー	0	0	0	0
テニス	1	2	4	7
計	21	26	22	69

⑦ 会場

会場名	実施競技等	概要
Taoyuan Arena	開会式、閉会式、卓球	
Taoyuan City Track field	陸上競技、サッカー	収容 30,000 人
Taoyuan City Swimming Pool	水泳	
Ming Chuan University, Athletic field	サッカー	
Central Police University, Stadium	サッカー	
Da Taoyuan Bowling Center	ボウリング	
Luzhu District Badminton Hall	バドミントン	
Ming Chuan University, Gymnasium	バスケットボール	
National Taiwan Sport University, Gymnasium	フットサル	
National Taiwan Sport University, Tennis Court (outdoor)	テニス	
National Taoyuan Agricultural & Industrial Vocational High School	柔道、テコンドー	
Blue Pond Park	自転車(Track)	
Road Race -No. 61 Provincial Highway northbound 30-48KM	自転車(Road)	

⑧ 各競技の実施状況

	日程	種目数	参加国数・選手数	日本選手団派遣選手数	その他
陸上競技	10/6	30	-	30 人	
バドミントン	10/10	6	-	7 人	
バスケットボール	10/10	1(男子のみ)	8 か国	8 人	
ボウリング	10/10	12	-	12 人	
自転車	10/9	4(男子のみ)	-	5 人	
サッカー	10/11	1(男子のみ)	7 か国	18 人	
フットサル	10/6-9	1(男子のみ)	3 か国	12 人	
柔道	10/6	6(男子のみ)	-	5 人	
水泳	10/8-10	35	-	12 人	
卓球	10/5-9	7	-	8 人	
テコンドー	10/4	5	-	0 人	
テニス	10/8	5	-	8 人	

・開会式:10/3

・閉会式:10/11

⑨　大会ロゴマーク等

【ロゴ】

8TH ASIA PACIFIC DEAF GAMES
TAOYUAN 2015

Designed by Chinese Taipei Sports Association of the Deaf

【マスコット】

(3) 第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会
(英名：Asia Pacific Deaf Games Seoul 2012)

① 開催国・開催都市

大韓民国　ソウル

② 開催日程

2012 年 5月26日(土)～6月2日(土)までの 8 日間

③ 運営主体

2012 ソウルアジア太平洋ろう者競技大会組織委員会

④ 参加国数・選手数

25 か国・地域　1,246 人

⑤ 実施競技数・競技名

14 競技 (陸上競技、バドミントン、野球、バスケットボール、ボウリング、自転車、サッカー、フットサル、柔道、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール)
うち、日本選手は陸上、テコンドーを除く 12 競技に参加

⑥ 日本選手団派遣選手数・成績

196 人 (選手：123 人、競技スタッフ：59 人、本部スタッフ：14 人)
金メダル：7 競技 28 個　銀メダル：5 競技 25 個　銅メダル：6 競技 17 個

	金	銀	銅	合計
陸上競技	0	0	0	0
バドミントン	0	0	1	1
野球	1	0	0	1
バスケットボール	0	1	0	1
ボウリング	0	0	0	0
自転車	0	0	0	0
サッカー	1	0	0	1
フットサル	0	0	1	1
柔道	2	2	1	5
水泳	19	19	7	45
卓球	3	2	3	8
テコンドー	0	0	0	0
テニス	1	1	4	6
バレーボール	1	0	0	1
計	28	25	17	70

⑦ 会場

会場名	実施競技等	概要
Jamsil Arena	開会式	1979 年完成。11,069 人収容
Seoul Olympic Main Stadium	陸上競技	1984 年完成。69,950 人収容
Jamsil High school	柔道	
Korea Armed Forces Athletic Corps Gymnasium	バスケットボール、テコンドー	
Namyangju Gymnasium	バドミントン	
Namyangju Sports Complex	サッカー	
Olympic Park	自転車、テニス	1986 年完成。10,000 人収容
Samsung Training Center	バレーボール	2007 年完成
Seoul Olympic Gymnasium	卓球	
Seoul Physical Education High school	水泳	
SK Handball stadium	フットサル	1986 年完成。5,003 人収容
Tancheon Bowling Alley	ボウリング	
Tancheon Secondary Stadium	野球	
Auxiliary Stadium	閉会式	11,069 人収容

⑧ 各競技の実施状況

	日程	参加国数・ 選手数(男・女)	日本選手団 派遣選手数	その他
陸上競技	5/29-31	-	0 人	
バドミントン	5/29-6/1	-	8 人	
野球	5/30-6/1	3 か国	15 人	
バスケットボール	5/29-6/1	4 か国 18 名	12 人	
ボウリング	5/28-6/1		6 人	
自転車	5/28-30	5 か国 13 名	5 人	
サッカー	5/23-6/2	10 か国	22 人	
フットサル	5/30-31	7 か国 134 名	9 人	
柔道	5/29-30	7 か国 24 名	5 人	
水泳	5/28-31	12 か国 50 名	13 人	
卓球	5/28-31	14 か国 61 名 (41・20)	8 人	
テコンドー	5/27		0 人	
テニス	5/27-28	6 か国 22 名 (12・10)	8 人	
バレーボール	5/29-31	3 か国 36 名	12 人	

・開会式:5/26

・閉会式:6/2

⑨　大会ロゴマーク等

【ロゴ】

3　まとめ

○ まとめ

このパートでは、文献調査とヒアリング調査を通じて得られた知見や課題認識などについてまとめることとしたい。

今回の調査対象となった国際的な障害者スポーツ大会は、大きく以下の3つのタイプに分類することができる。

① 世界規模で開催される総合的なスポーツ大会

夏季デフリンピック競技大会
スペシャルオリンピックス夏季世界大会

② アジア・太平洋地域で開催される総合的なスポーツ大会

アジアパラ競技大会
アジア太平洋ろう者競技大会、
スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会

③ 障害別国際スポーツ組織(IOSDs)が開催するスポーツ大会

IWAS世界大会
CPISRAワールドゲームズ
IBSAワールドゲームズ
INASグローバルゲームズ

①や②では、準備に莫大な国家予算を投入して実現した大会や、開会式などのセレモニーに国家元首が臨席した大会など、国の威信をかけて開催した大会も見受けられている。

一方、③では、国内の市民大会のような規模・雰囲気で実施された「手作り」大会や、組織委員会のガバナンスに起因する問題から大会の開催に支障をきたしたものなどもあった。

このように、大会の規模や組織委員会の運営力などに大きな違いはあるものの、共通して見受けられた項目を下記のとおり記す。

● 主な共通項目

【大会認知度の向上】

・今回調査した大会は、集客に課題を抱えているものが散見
・開催国によっては、テレビによる放送などマスメディアの露出も少ない
・大会の認知度向上には、障害者スポーツの普及啓発の取組が重要

【大会運営のノウハウ】

・国際大会の開催に当たっては、健常者競技団体の協力が不可欠な競技がほとんどである。そのため、健常者競技団体等との連携を深めていくことが重要
・大規模な国際大会を円滑に運営するには、単一競技などで国際大会の運営経験を積み、ノウハウを蓄積することが有効

【安定した財政基盤】

・今回、調査した大会のほとんどは観戦無料であり、チケット収入を見込むことが出来ないことから、ほとんどの大会で、国や自治体からの補助金が主な収入源となっている
・スポンサー企業による大会支援は、物品提供が目立つ
・安定的な大会運営には、行政による補助金だけでなく、企業のスポンサー資金を得るなどの取組も必要である

こうした課題を踏まえて、都は、2020年以降も国際的な障害者スポーツ大会が開催されていくよう、障害者スポーツ振興に取り組んでいく。

参考文献

「障がい者スポーツ大百科3 国際大会と国内大会」六耀社 大熊廣明 監修

「障害者とスポーツ」岩波書店 高橋明 著

「現代スポーツ評論 第29号」創文企画

「障がい者スポーツの歴史と現状」公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

各大会の国際団体、日本国内団体および大会組織委員会の公式ウェブサイト